

あなたの意識ではありませんか、

参考にしてください

第三卷

一七六、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。お母さん、申し訳ございません。

私は、間違つてまいりました。すべて、私が間違つてきました。己が、とても高かったです。母に教えていただいた温もり、優しさ、すべて、私は、蹴散らしてきました。自分のエネルギーのすごさを心で感じてきました。学びに繋がってよかったです。今、とても、私は幸せです。自分の醜い心、愚かな心を見させていただきました。お母さん、生んでくださってありがとうございます。****というこの肉体をいただいたことを、私は、とても喜んでいきます。

一七七、 ****さん、あなたの心を覗いてみてください。

****でございます。己が一番、そびえ立っています。ああでも、私は、自分がそびえ立っていることすら、まだまだ自分の心で分かりません。

己が一番、ああ、みんなそんな反省をしています。でも、私自身、どれだけ自分がそびえ立っているのか、感覚としてございません。

私は、心を見ていない。心を見ておりません。だから、私には、己がそびえ立っていると
いうことが、なかなか分からない。今、私は、このような状態でございます。

異語。

****さん、この学びは、心を見る勉強です。頭ではないんです。自分の心を見てください。
本を読んで、ホームページを見て、そして、CDを聞いて、あなたの心を、毎日動く心を見て
いってください。

お母さんに、すごいエネルギーが使われています。すごいエネルギーの塊の自分自身を感
じていってください。

その自分のエネルギーを、自分で把握しなければ、何も分かりません。

この学びは知識では分からないんです。心で分かる、あなたの心で感じる、そんな学びを
していってください。

一七八、****さん、心を語ってください。

私は、***でございます。心の中のすさまじいエネルギー、苦しい、苦しいって、私に訴えてきています。ああ、私は、私もその苦しい私に蓋をしてみました。心を語るな、語るな、語るな、語るでない、そんな声が聞こえてきます。ああでも、その一方で、私の思いを聞いてください、私の思いを聞いてください、そんな私が存在しています。不思議な世界ですね。意識の世界って不思議です。私は、今、自分の中で、色々な自分を感じています。

異語。

***さん、お母さんを思っ、瞑想を続けていってください。お母さんを思っ、確かに、あなたに真実を伝えてくれた意識でございます。お母さんを肉として見るのではなく、お母さんの思いに、触れていってください。それには、あなたが、まず、自分の心を見ることです。お母さんに使ってきた心を、ひとつ、ひとつ、丹念に振り返ってみる、そして、瞑想を続けていくことです。

あなたの心は、敏感です。どうぞ、それを丹念に繰り返し返していってください。そして、心の中から上がってきた思いを、異語で、どうぞ、あなたもあなたの中で、対話を進めていって

ください。そうやって、学びを自分の中で、進めていってください。

一七九、 ****さん、どうでしょうか、あなたの心を語ってみてください。

私は、 ****でございます。心の中の苦しさ、ああ私には、まだまだよく分からない。それよりも、私は、幸せになりたいんです。私の思いを聞いてください。私の幸せは、どこにあるのでしょうか。この宇宙にあるのでしょうか。宇宙のパワーを求めてきた意識、それが私だと私は、今、感じています。宇宙のパワーを求めてきました。心の中の宇宙、寂しい宇宙が私でございました。真つ黒な宇宙が私でございました。今、心の中から語ります。宇宙は寂しい、宇宙は暗い、宇宙は真つ黒、そんな私を感じています。

異語。

はい、 ****さん、どうぞ、心をしっかりと見つめてください。パワーを求めるあなたの心、とても危険です。心に温もりを呼び起こしてください。温もりとは、あなたの中にある

温もりでございます。宇宙のパワーを、その温もりを抜きにして求めていったとき、あなたの過去、苦しみがどんどんどんどん、心の中に広がっていくことを、あなたは体験されてきました。それで、あなたは狂ってきたことを、心は知っていると思います。

どうぞ、今世こそ、失敗しないでください。学びを知ったあなた、どうぞ、どうぞ、今世こそ、失敗しないでください。

一八〇、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。お母さんに使ってきた心を、私も振り返っています。

心が板ばさみだと、私は言われました。そうです、私は、どっちなつかずなんです。ああ、とても、そのところに欲を感じます。

ふたつの方向を追っている。この学びも、そして、肉の生活も、そういうような私の欲を感じます。

ああとても苦しいです。お母さんの反省を、ひとつ、ひとつ、やっていこうとしている。でも、その心の奥底は、その欲の思いでございます。

異語。

***さん、はい、そうですね。欲では、本当にあなたが望んできた学びはできかねます。どうぞ、心をしっかりと見ていってください。

あなたは、この学びを通して、自分の何を知りたかったのでしょうか。自分を本当に変えていきたかったのでしょうか。自分を救いたかったのでしょうか。どうなんでしょうか。それとも、あなたは、肉のあなたの人生を今世もまた…、その方向に心を向けていこうとなさっていますか。

ふたつにひとつの学びだと、私は、お伝えしました。

そうです、生活は生活として、やっていかなければなりません。でも心は、ひとつなんです。タイケトメキチ、アルバートの方向に、あなたの心を向けること、そのみでございます。肉の生活は、後からついてきます。

あなたが、それをどの程度、自分の中でとらえていくか、そのことを、あなた自身、選択していただくさい。

一八一、***さん、心を語ってみてください。

***でございます。他力の反省が進みません。他力の反省が進みません、拂りません。私は、母の温もりを感じていません。だから、他力の反省が進まない、自分で思っています。ああ、私は、他力の中に、今も心の中が、他力でいっばいと、自分では思っています。今、とても、とても、そのような感じがしています。

異語。

***さん、そうですね。お母さんの温もりを感じていないと、あなた自身は語られたようですけど、そうですね、お母さんの反省を、しっかりとしていってください。お母さんの温もり、あなたは、お母さんの温もりを知っています。

お母さんのお腹にいた頃、あなたは、とても幸せだったのです。お母さんの温もりを抱えて、あなたは、生まれてきました。

そのことを信じていってください。お母さんは、あなたを待っています。

どうぞ、心をお母さんに向けてください。

他力の反省が進まない、そうだと思います。あなたの中には、己の偉さがこびりついています。自分の頭を過信している、そう、あなたは、とても、自分の頭を過信しています。あなたは、己が偉いんです。頭を過信しています。そのことに、どうぞ、心で気付いていってください。

異語。

一八二、***さん、心を語ってみてください。

私は、ずっと、ずっと、教祖の思いを広げてきました。心の中に、教祖の思いが、数知れず残っています。私は自分の中で感じたものを人に伝えるとき、その波動で、この口を開いてきました。

だから、私の心がとても苦しいです。とても、とても、暗いです。心に感じていることがございます。でも、私の中を、私は見ていない。心の中に感じる暗さを、私自身は、まだまだ

はつきりと見ていない、そう感じています。

異語。

***さん、ご主人に対して、どのような心を使ってきましたか。

異語。

私を、ないがしろにしてきた主人に対して、優しい思いをかけることはできなかった、できませんでした。どうしても、私を、下に見ている主人に対して、私は、ああ私はそんな私でない、私を認めると、そう主人に向かって、叫んできました。そのエネルギーを流してきました。言葉では、そんなことは言っていなかった。でも、私の心の中から流れる思いは、そうでした。ございました。苦しい思いを流してきました。お母さん、ごめんなさい。すべて、私の苦しさをございました。

私のこの身体も心も、疲れ切っていることを感じます。母に向けた今、そのことを感じます、心も身体も疲れ切っている。お母さん、私は、疲れています。少し、少し、私の中で、時間を

ゆっくりと取りたい、そんな、私があります。お母さん、申し訳ございません。

一八三、***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。田池留吉、お母さん、間違つてまいりました。申し訳ございません。心を見ていきます。素直に、素直に、心を見てまいります。間違つて生きてきた私達夫婦でございました。私達夫婦は、間違つてきました。この肉の己のために、心を使い、身体を使い、そのエネルギーを使つてきました。そして、私達は、この学びに繋がりました。

子供の問題を通して、この学びに繋がらせていただきました。
今、私達夫婦は、とても幸せです。心を見る幸せを感じています。

間違つてきた自分達を感じ、心を繋いでいく方向に歩いている自分達を感じています。とても幸せです。

他力の中に心を沈めてきた私達ですが、今、しっかりと心を見ていきなさい、田池留吉の思いを感じ、お母さんの思いを感じ、優しい、優しい中に生かされていた私達を感じています。ありがとうございます。とても幸せでございます。

異語。

***さん、奥さんはこのように語られました。あなたは、どのように、感じておられますか。

はい、その通りです。私達は、間違つて生きてきたことを、感じています。でも、間違いがあつたから、苦しいことがあつたから、この学びに繋がり、心を見ようと必死になつて、過ごしてまいりました。

身体はまだ元気なうちに、時間がまだあるうちに、私達は、心を見てまいります。しっかりと心を見ていきます。田池留吉、お母さん、ありがとうございます。学びに集えてよかったです。転生が待っています。私達にも、厳しい転生が待っていると思いますが、必ず、必ず、心を繋いで、二五〇年後に出会いたいと思つています。

一八四、***さん、あなたの心を聞かせてください。

己高し、己偉しの心で生きてきた私でございます。申し訳ございません。ああ、素直になれなかった自分の思いが、どこまでも正しく、どこまでも自分を主張してきました。私の心の苦しみを聞いてあげることができませんでした。今、それを感じます。

心が苦しいのに、私は正しい、私は間違っていない、私は立派にやっている、みんなが悪い、周りが悪いんだ、私は正しい、そのように自分を、そびえ立たせてきました。私は間違っていないりました。

****さん、どうぞ、お母さんの反省をしてください。お母さんの反省、充分されたと思います、そうです、今度は、瞑想を通して、お母さんの反省をなさってください。目を閉じて、お母さんを思う瞑想をしていてください。田池留吉に心向けることをしていてください。

他力のエネルギーが、あなたの中に感じられるはずです。

どうぞ、その他力の思いとともに、お母さんに思いを向けていてください。嫌わずに、嫌がらずに、そう、ともに、ともにという思いを広げていてください。己偉し、高しの思いが間違っていることを、少し感じてこられました。そうです、その思いでは、あなたの苦しい意

識達に伝えることはできません。優しい、優しいあなたを思い出していつてください。

一八五、****さん、心を語ってみてください。

****でございます。貝のように心を閉じてきた私にとって、何から語ればいいのか分かりません。ああでも、私は寂しいです。お母さん、寂しかった。ああこんな思いを、素直に口に出せることが、今とても嬉しいです。お母さん、寂しかった。そう、私も寂しかったです。お母さん、寂しかった。

ああ、聞いてください、お母さん。私の思いを聞いてください。そんな思いで、お母さんを思ってきました。お母さんは、いつも私の思いを抱きしめてくれていたんですね。今、そのように感じます。

異語。

****さん、どうぞ、どうぞ、お母さんの瞑想をなさっていつててください。心を少しず

つ開いて、あなたも異語で自分の思いを吐き出していってください。心に溜め込んできたあなたの思いを、異語で出すんです。

音で、自分の中から外へ出すんです。中に閉じ込めていては、何も分かりません。異語で、あなたの心を解きほぐしていってください。

そうですね、奥さんと異語で語り合うのもいいでしょう。そうやって、あなた方が、異語で語り合うとき、そこからまた、何かに気付かれていくと思います。そうやって、ともに、学んでいってください。

一八六、***さん、心を語ってみてください。

***でございます。私も、今世だけでも、数々の体験をさせていただきました。肉での体験を通して、自分のエネルギーを知る、そのような道筋を歩いてまいりました。これから、そうです。私には、これからの転生が待っています。そうです、なお厳しい転生が待っているけれども、心に感じた嬉しさ、喜び、この思いを膨らませて、私もやってまいります。お母さん、ありがとうございます。

***さん、今、あなたは、心で語られたように、そう、あなたの意識は、そのことをすでに知っています。厳しい転生も待っているけれども、大きな喜びも待っていることを、知っています。どうぞ、心を繋いでいってください。

出会いを待っています。二五〇年後を待っています。心を繋いでいくあなたにとって、私達は、喜びを伝えます。

***さん、UFOに思いを向けてみましょう。そう、UFOに思いを向けてみてください。
異語。

はい、UFO、UFO、UFO、嬉しいです。UFO達、今、嬉しいです。嬉しい思い、懐かしい思い、暗い思い、寂しい思い、そう色々な思いをUFO達が伝えてくれる。この思いを心を感じながら、ともに、ともに学んでまいります。心からありがとう。UFO達よ、ありがとう、ありがとうございます。

一八七、****さん、心を語ってみてください。

はい、****です。頭を誇ってきました。私の頭を誇ってきた。でもその苦しさを、嫌と言うほどセミナー会場で感じさせていたかったです。

こんな苦しい思いを流してきたのか。頭を誇るとは、こんな苦しい思いを流してきたのか。私は、そのことを、何回も、何回も、感じさせていただいています。ああそれでも、私は立派、私はやってきた、私は賢い、そんな思いが、後から後から出てくるのが分かります。

すべて間違っていたことも、心で感じるけれども、ああそれでも、私は、まだまだそびえ立っている自分を、認めざるを得ません。

どうして、こんなにすごい私になってしまったのか、本当に何億年と過ごしてきた私の心の歴史、長い、長い歴史を感じます。

異語。

****さん、でも、よかったですね。学びに集えて、セミナー会場で自分のエネルギーと対面できて、こんな幸せなことはありません。しっかりとあなたを見ていってください。す

さまじいエネルギーも喜びでございます。喜んで、喜んで、そのエネルギーと対面していつてください。

こんな機会は、ああもうありません。これからは、それぞれがそれぞれの転生で、心を繋いでいくだけでございます。すさまじいエネルギーの中で、どのようにして自分を繋いでいくのか、それが、それぞれの課題です。

でも、今世、心で感じた喜び、幸せ、必ず花咲くときがあると思います。

それを信じて、残された肉の時間、精一杯心を見て、瞑想をして、そんな時間を過ごしてください。ご主人も学ばれていますよ。ともに学んでいってください。

一八八、****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。苦しい意識を何度も、心で感じてきました。身体にも出てきています。それを受け止めるだけの私自身に、大きな、大きな心の世界があることを、まだ、全面的に信じられないです。

でも、信じようという方向に行っています。少しずつですが、自分の中を見て、明るい自

分も感じています。

すさまじいエネルギー、パワーを求めてきた。そうパワーを求めてきた私のこの中に、ほんの少しですが、明かりが灯っています。

今世、この肉をいただいて、その明かりを灯しました。この明かりを消さないように、しっかりと心を見てまいります。

お母さん、私は、本当に真つ黒な中から生まれてきたんですね。

はい、****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

****の意識。私は、****でございます。お母さん、ごめんなさい。申し訳ございません。素直になつて、心をもつと見てまいります。心を、大きく、大きく、広げていきます。お母さんが私を受け入れてくれたように、私も心を大きく開いてまいります。ごめんなさい。今感じている優しさ、温もり、信じてまいります。

タイケトメキチ、アルバート、心からそのように思います。

一八九、***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございませう。他力の心、すごい、すごい他力のエネルギーを、私の中に、何重も、何重も巻きつけて、今世生まれまゐりました。苦しい中を生まれまゐってきた。他力の思いがすごいです。

この年になつて、ようやく、今世、学びに繋がりました。ですが、私の中の他力のエネルギーは、私の中で、まだまだ苦しみ喘いでいます。

欲、欲、欲の思いで、他力のエネルギーを求めてまゐりました。すべて私でございませう。

異語。

***さん、心に培つてきたエネルギー、少しずつ、少しずつでいいんです。どうぞ、優しい思いで見つめてください。

優しい思いとは、お母さんがあなたを、お腹の中に入れてくれた、あなたを受け入れてく

れた優しさ、何も求めない優しさでございます。

その優しさを、どうぞ、心で感じていってください。

あなたの身体を動かすこと、肉の心を使うこと、最小限になさってください。それよりも、じつと自分を見つめ、お母さんを思い、自分の中と対話する時間を持つってください。

一九〇、****さん、心を語ってみてください。

****でございます。自分の間違いが何であったのか、この心の苦しみはどこから来るのか、いくら頭を回しても分かりませんでした。頭を回しても分からないと言われても、私も頭を回してきました。

心の苦しさを感じてきました。どうしてもこの苦しさがどこから来るのか、追求していく自分の思い、その思いが、また、とても自分を苦しめていく、そこに、私は、まだ気付いていません。

****さん、あなたは、セミナーに何回参加されていますか。特に、ここ、一、二、三年の間に、

セミナー参加がありましたか。

セミナー会場で、現象をその目で、その耳で、見て聞いたことが、何回あるでしょうか。この学びは、そう、心でしか分からない学びですが、まずは、セミナー会場に肉体を運ぶこと、それは、大きな、大きなことだと思います。いいえ、セミナー会場に、肉体を運ばなければ、本当のところは分からないというのが、実情だと思います。

人間はみんな自分の頭を重視してきました。頭で理解できないものは理解しない、そういう方向に、どんどん行ってしまったんです。

自分の肉体を通して体験すること、それがどれだけ効果的な学び方であるのか、セミナーに集われた人なら分かると思います。

その体験を、できればあなたもなされば、もう少し、自分の勉強が進んでいくのではないかと思うのですが、あなたの肉体的な都合もあるでしょう。

強制はできません。ただ、本で、ホームページだけで学ぶというのには、限界があるというのを、ここでお伝えしておきます。

異語。

一九一、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

他力の神々のエネルギーを、たくさん、たくさん蓄えてきた私の過去からの思い、今、それが間違ってきたことを感じ、私の中に、喜びを伝えてくれています。間違ってきたことが嬉しかった。間違い続けてきたから今がある、そう、私は感じています。

お母さん、お母さん、お母さん、間違っていました。

他力の神々に心を向けてきたのは、私の欲でございました。欲、欲、欲、欲いっぱい私が、次から次へと他力の神々の中を渡り歩いてきました。そして、己こそ一番の神となってやろう、そんな思いを心に広げてきた者でございます。

他力の神々を心に求めてきた私ですが、私は、自分の中に、本当の喜びがあったことを、微かに感じさせていただきました。この微かな喜びを知ったこと、これは、私の心の歴史にとつて、とても大きな第一歩だと、私は、思っています。

嬉しいです。お母さん、ありがとうございます。他力の神々を求めてきた私の心、これからも見てまいります。他力の神々にひれ伏した私は、本当に暗闇の中を存在し続けてまいりました。お母さん、今生生んでいただき、私は、微かな喜びを感じるようになりました。とても

嬉しいです。

異語。

***さん、よかったですね。学びに集えて、そして、ご主人やそのご兄弟の人達と学ぶことができ、幸せだと思います。

それぞれの間で、色々な心を出されると思いますが、それも、あなた方の勉強でございます。どうぞ、ともに学んでいってください。

心を素直に、有りのままに出し合って、学びを進めていってください。

さん、どうぞ、喜びを感じたあなたのその思いを、素直に広げていってください。ひとりの人の心に芽生えた喜び、それが、そこに繋がる人達に流れてまいります。どうぞ、自分の心をしっかりと見て、という思いを表すことなく、どうぞ、あなたの感じた喜びを、あなたに繋がった人達に、伝えていってください。それは、あなたが、お母さんに、本当の自分に心を向けていく作業の中でできることです。

己というものを前面に出したならば、それは、またブラックに変わってまいります。

一九二、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***でございます。他力の反省を積み重ねることによって、私は自分の心を見てまいりました。そのように思ってきました。しかし、私の心の見方は浅いということを感じています。

自分は一生懸命やってきました。心も見てきたつもりです。でも、つもりはつもりだったんです。私の心の中には、まだまだたくさんエネルギーが残されています。ほんの表面だけを、私は見てきたような気がします。

肉では一生懸命にやってきました。でも、肉で計り知れない私の心の世界でございました。今、そう感じています。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

***でございます。田池留吉、申し訳ございません。たくさん間違いを繰り返してまいりました。そのたびに心を見ることをやってまいりました。しかし、私の心の見方は浅か

った。そう、肉を超えることはありませんでした。意識の転回が捗っていないことを感じます。しかし、それを、私は、なかなか自分の中で認めることができませんでした。***、はい、この看板を下ろすことができなかった。

肉の私のこの思い、とても強いを感じてきました。田池留吉、申し訳ございません。

異語。

***さん、どうぞ、あなたの心をもっと、もっと見ていってください。せつかくこの学びに繋がったあなたです。どうぞ、心を、もっと、もっと見ていってください。

異語……。今、異語で私は、あなたにお伝えしました。あなたの心で受けていってください。どうぞ、田池留吉に心を向け、あなたの心で受け止めていってください。

さん、あなたのという看板を下ろすことは簡単なことでございます。ただだ、タイケトメキチ、アルバートに心を合わせていく、そのみでございます。

一九三、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。お母さん、寂しかったよ、お母さん、寂しかった。苦しかった私の心を、お母さんは、受け入れてくれました。

私は、今、自分の心を見ようとしています。苦しい心、寂しい心、自分では、目を背けたくなるような、恐ろしい自分の心が出てきますが、それでもお母さんは、私を受け入れてくれました。そのことを信じて私は、やっていこうとしています。少し、心が挫けそうになるときがありますが、その時は、私は、なるべく自分の心を外に向けないようにして、瞑想を続けていきます。私の過去世もみんな、それを望んでいることを、私は感じています。素直になっとうとすることを、望んでいると思います。

反逆、反発、抵抗、色々な思いを抱えて、私は、何度も生まれてきたけれど、今世の私を通して、私を受け入れていきたい、今、そのように思います。お母さん、田池留吉、今、心を語らせていただけることが、とても嬉しいです。ありがとうございます。

異語。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

私は、***。はい、田池留吉、お母さん、間違ってます。心をもっとしっかりと見てまいります。己一番の心を見てまいります。

ともに、ともに、見てまいります。私は、間違ってます。今、とても嬉しいです。お母さん、とても嬉しいです。

苦しかった私、寂しかった私、だけど、今とても嬉しいです。この学びに繋がってよかったです。ありがとうございます。ありがとうございます。

一九四、***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。一生懸命に生きてまいりました。家族のために、一生懸命に生きてまいりました。自分の人生を一生懸命に生きてきたという私の思いは、とても大きなものがあります。これを崩していくのは、なかなかですが、でも、自分の心の中にも、苦しい思い、寂しい思い、色々な思いを抱えている私も感じています。

はい、一生懸命に生きてきた、その思いは、過去からずっと私の中であつたんですね。今世もまた、その同じ思いを使って、私のこの肉の時間を、そちらの方向にエネルギーを使ってまいりました。これから私は、そのエネルギーを、少しずつ自分の中に向けてまいります。苦しかった私、寂しかった私、そのほうに思いを向けていきます。

自分は幸せだ、生まれてきてよかった。少しでも、そのように思えて、私のこの肉を終えていきたいと思つています。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、お母さん、お母さん、お母さん、生まれてきてよかったと心に言えて、この肉を終えていくことを、私は、今、望んでいます。何も持たない私がありました。何も持たない私を返してまいります。

そして、また何も持たない私が肉体をいただきます。ありがとうございます。心を見てまいります。

異語。

***さん、ご主人は、少しずつ変わっていかれると思います。今、ご主人の思いを聞いて、あなたはどのように思いますか。

はい、私は、***でございます。とても嬉しいです。主人にとっても冷たい心で接してきました。私も己が偉かったです。私の人生、私の思い、家族とともにあったと思っただけ、私は、私だけを優先してきたと、今、思っています。自分中心に生きてきました。心の世界は、そうでした。肉では、私は、家族のために尽くしてきたつもりでしたが、私の心の世界は、己が一番、私が一番でございます。それを、この頃感じています。

今、心を語り、やはり、そうであったかと思っています。

主人とともに、学んでいくことを喜びとしています。私も生まれてきてよかった、そうやって、肉を終えていきたい、いこうと思います。

***さん、どうぞ、あなたも田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

私は、***。田池留吉、申し訳ございません。長く学ばせていただきました。心からそう思います。これからは、私も自分の心をしっかりと見てまいります。伝えていただいたことを信じて、その方向に心を向けてまいります。

幸せを感じたい、喜びを感じたい、そう私は、欲の思いを広げてまいりました。でも、心を見ることによつて、自分の中に、喜びと幸せ、本当の喜びと幸せがあることを信じて、これからもやつてまいります。

待っていてください。私も、二五〇年後出会いたい。心を繋ぎたい、繋いでいこう、いや必ず繋いでいく、今、このように思っています。

一九五、***さん、心を語ってみてください。

***でございます。お母さん、自分の心を閉ざして生きてきた私にとって、お母さん

の思いを感じることはありませんでした。心を閉ざしてきた私は、とても暗かったです。お母さんの思いを、素直に受け入れることはなかった。だから、他力のエネルギーを求めてきました。それが、過去からの私でございました。今世もまた、同じようなことを繰り返してきました。この学びに集い、本当のことを聞かされながらも、私は、過去からの自分を、その通りに生きてまいりました。今、心を語るとき、本当にその通りだ、何も変わっていない私を感じます。それでも、私は、お母さん、あなたに今世肉体をいただき、真実のことを伝えてもらう学びに繋がりました。

このことを喜ばずに、何を喜んでいくのか。今、語りながら感じています。

***さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん。苦しい、寂しい、お母さん。苦しい、お母さん。寂しい、お母さん。そんな思いを、いっぱい抱えてきた。でも、肉のお母さんは、私のことを何も分からないと、私は、恨む思い、憎む思いで、自分の心を閉ざしてき

ただけでございました。心をしっかりと中に向けて、自分を見つめてまいります。お母さんは、もうすでに伝えてくれていました。後は、私が私を見ていくだけでございました。

一九六、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、***です。何度意識を聞かされても、私の心は、アマテラス一色だと、今も語られるように思います。そうです、この心、アマテラスに心を売ってきた私にとって、アマテラスと私は、一体化しております。

それでも、私は、このアマテラスの心を見ていこうとしています。それが、過去からの私と、今の私との違いでございます。今、はつきりと、そのように感じています。

心の中のアマテラスに優しい思いを向けることを、学ばせていただきました。アマテラスにひれ伏してきた私ですが、心の中の優しさ、温もりを、アマテラスに伝えることを教えていただきました。

そうやって、日々の時間を過ごしてまいります。肉体生命の時をいただいた私にとって、貴重な時間だと思っております。

心を見てまいります。アマテラスと一体化した私の心を見る、ということとは、アマテラスを自分の中から解き放つ、そこに繋がっていくんですね。アマテラスを嫌わずに、アマテラスとともに歩いていこう、生きていこう、過去からの私の思いとは別の全く違う思いで、アマテラスとともに歩いていこう、そんな思いが、心から湧いて出てきます。

この学びに集えてよかったです。ありがとうございます。

異語。

***さん、アルバートに心を向けてみてください。

異語。

アルバート、アルバート、私は、***の意識、アルバート、アルバート、心の中のアルバート。

私は、アルバートを求めてまいりました。間違った方向に心を使ってきたけれど、やはり、私は、アルバートを心に求めてきた意識でございます。

今、感じている思いを信じて、信じて、信じて、心を繋いでいきたいと思えます。
二五〇年後の出会いを待っています、私は、そのようにあの時、伝えられました。必ず、私は、
二五〇年後に心を繋いでまいります。****でございました。

一九七、****さん、あなたの思いを語ってみてください。

あなたは、今、精神科医として、色々な患者さんに接しておられます。

心の苦しさを感じていますね。どのように患者さんに接していけばいいのか、あなたの思いは変わりましたか。

はい、私は、****です。

私は、人の心が狂っていくのを肌身で感じています。どうして、このような事が起こるのだろうか、私は、長く疑問でした。

人それぞれの境遇がございます。もって生まれついた性格というのでしょうか、そのようなものにも原因があるかもしれません。そう思ってきました。

ですが、全く私は、何も分かっていないのと同じでした。

知識面では、私は、色々学んでまいりました。もちろん、実際に、医療の現場で、たくさんのお患者さん達と接してきた。しかし、私は、この学びに繋がって、自分の心を見る、そしてお母さんを思う、お母さんに使ってきた心を見る、そういったことを、自分なりに、実践していったときに、私は、私自身が何も分かっていないことを、知らされて、私は、何とも言えない思いになりました。こんな私が、人の心を治す職業に就いている、それが、未恐ろしくなりました。でも、私を頼ってくる患者さん達がたくさんいます。また、私にも家族があり、今の仕事を辞めるわけにはいきません。

でも、私は、今、本当にこれでいいのだろうか。私がつと、本当のことを自分の心で分かって、そして、それを患者さん達に伝えることができたなら、そのように思っております。

異語。

(私の思い)

はい、沖繩というところは、意識の世界からすれば、とても暗いところでございます。かつて何度も島が沈み、そして、また、島がそこに出来上がり、そうやって、他力のエネルギーをまともに受けてきた土地でございます。

だから、沖繩というところは、すごいところなんです。沖繩の神々を根底から崩していくのには、まだまだもう少し時間が、かかりそうです。

それぞれの家を守り神が飾られています。神は、人類を守ってくれるもの、喜び幸せに導いてくれるもの。神よ、我らを救いたまえ。我らこそ、素晴らしい、神より選ばれた民である。その思いが、沖繩の人達には、とても強いです。

そして、本土は、異国なのです。

沖繩返還がなされてから、年月が経ちますが、依然として、沖繩の人達の心にあるものは、異国。

本土から離れたところにある沖繩王国としての誇りが、それぞれの心の中に根付いています。痛ましい事件も起こります。それらはみんな、天変地異を含めて、それらはみんな、沖繩の人の心に眠るブラックのエネルギーに気付いてくださいということですが、まだまだそのことに気付いている意識は、皆無と言っていいでしょう。その中で、何人かの人達がこの学びに繋がりました。

沖繩に、本当の光をということ、心を見ようとされている方が、ポツポツと出てまいりました。まだまだ、弱い光かもしれませんが、それが、これからの沖繩にとって、必ず、第一歩になるものと信じています。

一九八、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。どこまでもそびえ立っている私を感じるけれども、私の中にもお母さんの温もり、安らかな思いがあることを信じて、私は、この学びをやってきました。でも、心の中に他力の思いを、しっかりと秘めています。素晴らしい自分になりたかった。素晴らしい私を認めてほしかった。その思いがしっかりと残っています。

心を語ってみてください、ああでも、私の心の中を自分で覗いてみても、私自身、何から語ればいいのか分かりません。それほど、心の中に詰め込んできた思いは、たくさん、たくさんあります。

己偉いという思いひとつにしても、私は、自分の中で私自身はつきりと感じていない、そういう状態でございます。その一方で、私は、この学びをずっと続けてきました。それは、私の中が求めている、本当のものを求めているに違いない、そう、私は、のように自分を信じています。どれだけ心が荒み、心が汚れ、心が落ち込んでいようとも、私は、本当のことに出会いたい、本当のことを知りたいという自分の思いを信じて、やっていきます。

私には、ここにしか帰るところはない、今、そう感じます。たくさんの私を抱えて生きてきた、そして、そのたくさんの私は、ここにしか帰るところはない、そうやって、みんな叫んでいるような気がします。

***さん、お母さんを思ってください。

異語。

私は、お母さんを思うとき、心の中がとても、とても苦しい、そういう思いと、嬉しい思いが交錯しているような気がします。お母さん、まだ私は、お母さんにこの心を、すべて託していけない、そんな自分を感じます。

異語。

一九九、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。今、私は、何を思っているのだろうか。ふと自分の思いを見たときに、私の中に他力の思い、他力の神々を、心の中に求めてきた自分を感じます。

苦しいとき、私は、心に何かを求めてきました。私の中に神を求めてきた、そうそれが他力の神々でございました。

長い時間が経ちました。学びに集わせていただき、長い時間が経ちました。私の心、学びに集った頃より、どのくらい変わってきているのでしょうか。今、自分に問うてみると、私の中は、そうですね、ほとんど変わっていないような気がします。

肉の表面では、何かゆったりとした嬉しい思いも広がっているけれど、心の底の底は、まだまだすごいものを抱えて、私は、存在しているような気がします。その思い、蓋というか扉を、私も開けていないような気がします。心の底の底から、私の叫びを聞いてあげられるだけの私になっていないような気がします。

異語。

***さん、毎日、瞑想をしていますか。何を思い瞑想をしていますか。何も思わなく

ていいんですよ。目を閉じて、あなたをじっと見ているあなたに、思いを向けてみてください。そんな時間を過ごしていただく。そして、あなたも、思いを、どうぞ、異語で、ほん自分の中から出すようにしていただく。

異語。

田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

私は***。ああ田池留吉、私は、お前に、お前に従うことを、私は、心の中から反抗している自分を感じています。自分のエネルギーを感じています。田池留吉、本当の私に反抗している私を感じます。申し訳ございません。でも、私は、自分に嘘がつかない。素直になろうとしてもなれなかった私の心の底の思いを見てこなかったからです。心の底の塊を見てこなかった。今、それを感じさせていただいています。

***さん、あなたの心の底は、本当に、まだまだ固い、固い、固いもので覆われています。どうぞ、瞑想を通して、それを少しずつ、自分の中で溶かしていつてください。溶かしていくのは、あなたの中の本当の優しさ、本当の温もりでございます。

二〇〇、***さん、思いを語ってみてください。

異語。

私は、***でございます。私は、自分の心を、一生懸命に見ております。はい、見ております、見ております、そのように、私は、自分に言い聞かせています。

己偉い私を崩すのは、並大抵のことではございません。私の中には、たくさんの己偉いエネルギーが詰まっています。どれだけ頭を垂れ、懺悔を繰り返しても、私の中からムクムクと湧き起こってくる己高しのエネルギー、これこそ、私が自分の転生の中で、営々と築き上げてきた帝国でございます。

異語。

あなたは、治療師として、その道は熱心です。あなたは、それをそのパワーを誇ってきましたね。

はい、そうです。私は、念を込めて治療に当たってまいりました。私から流れるエネルギーのすごさを、身体を病んでくる人達に対して、向けてまいりました。私の配下に置こうとしてきました。

形は治療をする者として、しかし、心の世界は、私の配下に置こうとしたんです。

私を敬え、私を崇めよ。私は素晴らしい力の持ち主であるぞ。

このパワーにひざまずけ、かしずけ。

そのような心を、ずっとずっと使い続けてきました。

少しばかりですが、その思いは、おそらく以前と比べると弱まっているでしょう。しかし、私の中では、依然やはり、高く、高くそびえ立っている私を感じざるを得ません。

田池留吉は、すごいエネルギーの持ち主だ。しかし、この私も、その田池留吉に負けず劣らず、すごいエネルギーの持ち主だ、そのように己を誇ってきました。

あなたは、ずっとずっと以前に、○○○○○さんのことについて、皆さんの前で、語られたと思いますが、そのあなたを憶えておられますか。

今、あなたは、その当時のあなたを振り返り、どのように、思われておりますか。

私は、とうとうと語らせていただきました。この心の中に、○○○○○こそ素晴らしき指導者、教祖、そのように、心に奉ってきたからです。

私は、しかし、だんだんやっていくうちに、○○○○○の上を行く自分を感じてきました。

そして、私は、その過程で、私は、自分が上に立って、○○○○○を自分の中で受け入れていつているとは思えなかったです。

自分を上にして、○○○○○を受け入れている、そう、その通りです。受け入れるという優しさが、私にはありませんでした。

己を上にして、上から覆いかぶさるようにして、自分の配下に置いて、そして、これが、これこそ正しい道ですよ、○○○○○さん。あなたの道は、間違っておりました。どうぞ、心を見て、頑張ってください。

そのように私は、言ってきたんです。とてもとても己偉い自分を、その時まで、私は気付

いておりませんでした。

異語。

はい、あなたは、お母さんに対してどうでしたか。お母さんを、どのように見てこられましたか。

はい、母の反省を通して、私は、母に使った思いを、繰り返し、繰り返し見てまいりました。しかし、心の奥底に残る母への思い、母を見下げる思い、母を見下す思い、我こそ素晴らしい、我は素晴らしい、その思いで、母を見ていた自分、その自分を私の反省では、まだまだ、拭い切れていない部分があります。

だから、私は、本当の温もりを知りません。無条件に母が私を受け入れてくれたあの優しさ、温もりを私は、自分の心で切り捨ててきたんです。あんな母親からの温もりを受ける、この私が私を許せなかったんです。

それほど、私は、己が偉かったです。

異語。

二〇一、***さん、心を語ってみてください。

私の中にも他力のエネルギーが渦巻いています。心は苦しい、苦しいって叫んでいるけれど、私は、素知らぬ顔をしてまいりました。自分の幸せ、家族の幸せ、そのために生きてきました。ああそうです、自分よりも、家族、そう家族のために生きてまいりました。

手を合わせ、祈って、縋って、幸せを求めてきました。

***さん、ご自分のため、ご家族のため、何とかのためという思いを見ていってください。あなたの肉体生命は、自分のために使ってください。自分のためという自分ということも、しっかりと自分の中で、思っていってください。年は召されていますが、どうぞ、これからは、自分のためってどういうことだろうか、そういうことを思いながら、生活をしていってください。

二〇二、 ＊＊＊＊＊さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、 ＊＊＊＊＊でございます。寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しい、寂しいからパワーを求めてきた。そう私も、パワーを求めてきた。寂しいからパワーを求めてきた。ずっとずっとその心で生きてきました。ああお母さん、寂しかった。お母さん、私は寂しい心を抱えて、ずっとずっと存在してきました。

＊＊＊＊＊さん、あなたは、過去から未来へ続くあなたご自身を、その心で信じていますか、感じられますか。今はまだ難しいと思います。

どうぞ、お母さんの反省をなさって、自分が過去から未来へと続く時間の中で存在していることを、心で感じていってください。

寂しい心、それは、ずっとずっとあなたが昔から、そう、ずっとずっと昔から、あなたが抱いていた思いでございます。それがあなたでございます。そのあなたを、喜びのあなたへ変えていくこれからの時間、どうぞ、心で感じていってください。

二〇三、 ＊＊＊＊さん、あなたも心を語ってみてください。

心をどこかに置き去りにしてきたような私があります。何かをし残しているような気がします。そうです。私は、自分の心をまだまだ真正面からとらえていない、肉の時間の中で、私は、私としつかりと向き合っていきたい、そのように思います。

仕事の第一線を退きました。しかし、私の心はまだ、そちらのほうにあると思います。きっぱりと身を引いたわけではございません。

便宜上という、形はそうです。でも私の心、思いは、まだまだしつかりとそちらのほうに向いていると思います。これが、私が私を真正面からとらえられない大きなネックとなっていると思います。

＊＊＊＊さん、もういいではないですか。すっぱりと決別してください。

あなたは何のために生まれてきましたか。あなたは、ご自分の会社を一応立派に興されました。その後は、もういいのです。あなたは、そこで使ってきた心を、しつかりと見つめる、そしてお母さんに思いを向ける、そう、どんどんそういうふうな方向にしていってください。

あなたの肉の時間も、もうあまりないと思います。会社のことを思う時間は、もうないのです。もういいのです。ただただあなたは、あなたを見つめて、しっかりと前を向いてこれからの二五〇年、三〇〇年を見つめて、あなたの心をしっかりとそちらのほうに、照準を合わせていってください。

何のために生まれてきたのか。あなたはあなたを知る、本当のあなたを知る、そのためにあなたは生まれてまいりました。

二〇四、***さん、心を語ってみてください。

すさまじいエネルギーを蓄えてきた。私にとって、心を見るところは、たやすいことではありませんでした。私は、昔、昔、ひとつの大きな仕事をしてきたという思いがあります。ああでも、それを私は、自分自身を見つめるということに活用してこなかった、今、そのように思います。

私のためでした。誰のためでもなかった。私のために、私は、この肉体を動かしていたのです。それが、私は、あの当時分かりませんでした。ただただ、仕事をしている、仕

事をさせていただいている、その思いは確かにありました。そう、立派な仕事をしているという自分を、それによって誇ってきたこともありました。

下らない思いを流してきたものです。申し訳ございません。私は、自分のエネルギーを知するために、そのようなチャンスをいただいたのです。本当に申し訳ございません。

***さん、心の中にまだまだたくさんのエネルギーを秘めています。たとえば、ご主人に使った心、あなたはあなたなりに見てこられたと思いますが、どうぞ、もっと深く、正直に、真正面から見えていってください。

すさまじいエネルギーで、ご主人に立ち向かってこられました。それがそのまま、田池留吉に対しての思いだと思います。田池留吉、すなわち、本当の自分に反逆してきた思い、それをご主人があなたに見てくださいと言ってきたのだと思います。

どうぞ、ご主人に使った思いを、今一度、しっかりと見ていってください。本当の自分を忘れ去った自分は、いったい何だろうか、そこにあなたの思いがくるとき、またあなたの道が開けると思います。

どうぞ、心をしっかりと見ていってください。

二〇五、***さん、あなたの思いを語ってください。

今の心を語ってください。

私は、***でございます。この学びに繋がったこと、田池留吉と出会わせていただいたこと、とても嬉しく思っております。

私は、すさまじいエネルギーを蓄えてきました。今世だけでも、すごいエネルギーを詰め込んできたことを確認しております。

そのエネルギーを、これからどのようにして、自分の中で消化していくのか、私の大きな課題でございます。

ひとつずつ、ひとつずつ、そう少しずつですが、私の中でそれをやりつつあります。でも、まだまだ難しいものがございます。

私は、母親に向けたときの思いを、まだしっかりと心に確認しておりません。嬉しい思いは広がっています。お母さん、ありがとう、私を産んでくれてありがとう、その思いは、確かにあります。しかし、私の中に培ってきた他力のエネルギー、自分を頂点とするエネルギーはすさまじいです。母親の反省を通し、そのことを感じさせていただいています。

ああでも、私は、これからこのことをやっていくんですね。そう、自分のこの命が果てるまで、これをやっていく、それが私には感じられる、それが、私にはとても嬉しいです。

異語。

二〇六、***さん、他力信仰の時の心を振り返ってこられましたでしょうか。

私は、***でございます。他力を求めてきた私の心の中は、ヘドロのような塊だけでございます。すべてが、欲、欲、欲、びっしりとこびりついた私の心の中。そのお掃除が、とても大変でございます。

どこから始めていけばいいのか。だけど、私は、この掃除をするしかないのです。自分の中に溜めに溜め込んだ思いが、積もり積もって、腐り、そして、ヘドロのようになって、汚臭を放っていた、それが私の心でした。私でした。

今世の私の人生は、大変な苦勞を重ねてまいりました。主人に、手こずりました。私の心

の中を、心の中のへドロを存分に吹き出させてくれた人、それが主人でございました。

私は、そのように、ずっと頭で理解してきました。そう、ずっと、そのように頭で理解してきたんです。だから、私の心は、ずっとずっと苦しみを引きずったままでした。へドロの臭いをかきながら、私は、それでも、自分は正しい、そのように言い放ってきたのです。今、ここにきて、ようやく、そのへドロの臭いをかいだときに、ほんの少しばかり、自分の間違いに気がきかれています。

私は、溜め込んで、溜め込んで、そして、腐り切ったその中を、自分自身がお掃除しなければならぬ、そうはつきりと感じていきます。

それができるのは、私。私だったんですね。

自分で汚したものは、自分で掃除をする、こんな当たり前のことが、分かりませんでした。

異語。

****さん、お母さんの温もりを心に感じておられますか。

お母さんを思ったとき、あなたの心に響いてくる思いは、どのような思いでしょうか。

はい、死んでしまえ、死んでしまえ、死んでしまえ。あんな母親、死んでしまえ。あんなお母さんなんか、嫌い、大嫌い。そのような心で、私は、ずっときました。母の温もりを、心を感じたことがない、私の勉強の心は、そう叫んでいた。だから、私は、ずっとずっと、他力の神々を、求めてきた。

温もりよりも、もつとすごいものを、自分の中に入れたかった。

今、母を思うと、自分の心の向け先の間違い、いいえ、そのすごさを感じます。

母の温もりを蹴散らしてきた自分のエネルギー、他力に向けてきたエネルギーを感じさせていただいています。

二〇七、***さん、あなたがどんなに苦しさを訴え、不安と恐怖を訴えても、そこから自分を解き放つのはあなたです。

肉のあなたが今感じている苦しさ、恐怖、そんなどころではありません。あなたの中には、それ以上、いいえ比べることができないほどの苦しいあなたが無尽蔵にいます。

一方、あなたがセミナー会場で飛び跳ねた喜びのあなたは、それもあなたです。そのあなたが本当のあなたです。苦しくてどうしようもないあなた自身は、みんなその状態なのです。

それを信じてください。

でも、何もしなくては、そんなこと信じられるはずがありません。信じよう、信じようとするのは無理だし、欲です。

だから、お母さんの反省です。肉のあなたができることはただひとつ、お母さんの反省です。お母さんに使ってきた心を、思いをどんどん見ていくことです。ノートにでもいい、口から吐き出してもいい、とにかく、それを徹底的にやることです。

それ以外に方法はありません。それ以外に何もありません。

田池留吉はただの老人です。何もしない人にとってはただの老人、そのことを忘れないでください。

二〇八、***さん、心を語ってみてください。

***でございます。田池留吉、田池先生、長い間学ばせていただきました。本当に申し訳ございません。心で気付く、心で感じる、ずっとずっと、そのように伝えてもらいました。幼子の心に戻りなさい。あなたの心の中にすべてがあるんですよ。私は、田池先生から、そ

のような言葉を何度聞かされてきたことか。そして、その言葉に乗せて、優しい、優しいお母さんの温もりを感じさせていただいたことか。私は、今、それを振り返るにつけ、幸せな自分を感じています。心で気付く、心で感じる、私のそういったものは、まだ微々たるものかもしれませんが、これですと、これからも続けてまいります。その方向に心を向けてまいります。

****さん、どうぞ、奥さんとともに、心を田池留吉、本当のあなたに向けていってください。優しい、優しい、あなたが待っていると思います。奥さんも変わられました。喜んでおられます。どうぞ、おふたり揃って、心を真実の方向に向けていってください。

二〇九、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。私には、物事を見通せる力があると思ってきました。何かしら心を感じるものがあると思ってきました。それがブラックだと言われました。ああでも、私の中では、まだまだ納得しておりません。私は、人によかれと思つて自分の感じたものを伝えた、それがどうしてブラックなのか、私にはまだ納得できません。

私は、感じるんです。別にそれでどうこうする思いはありません。ただ心で感じたものを、そのまま、その人に伝える、それがどうして悪いことなのでしょう。私には、よく分かりません。

***さん、あなたの心の中にあるものは何でしょうか。お母さんの温もりを感じていますか。あなたは、ご自分の肉、それをどのように思っておられますか。

あなたの心で感じるものがあるとおっしゃいましたが、それをあなたに伝えている意識の世界を、本当にご存知でしょうか。

答えは簡単です。あなたは何も知らない。自分がブラックに心を向けていることすら、分からない状態でございます。ただ心に響いてきたものを言葉に換えて、相手に伝える。しかし、言葉ではないのです。あなたの中から波動となって流れているものがブラックだと言っています。それは、この宇宙を破壊するエネルギーでございます。どうぞ、そのことをあなたの心で、知ってくださいというのがこの学びです。それにはお母さんの反省です。お母さんに使ってきた心を、丹念に見ていくことです。そして、お母さんに向けて瞑想をする、素直な本当に素直な心になって瞑想をする、それしかないのです。

二一〇、****さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は****でございます。自分の間違いに心で気付くことが、とても嬉しい。今、私は、そのように思っています。

色々な心を使ってきた。すべては肉を土台にした思いでございます。肉を土台にしてきたから、私は、いつも戦ってきました。戦って、戦って、戦い抜いてきた。そして、その先にあるものを求めてきた。それこそが、私の喜び、幸せだと思ってきたその心は、すべて土台が違っているから、間違っていたんだ、今、それを、少しずつですが、自分の中で、ああそうだったと気付くときがございます。

ひとつ気付いて、また後戻りをして、そういう私ですが、心で感じたものを信じていけばいい、田池先生の言葉を信じて、私は、一歩ずつやってみます。

****さん、心を田池留吉に向けてみましょう。

異語。

田池留吉、お母さん、ありがとうございます。ああ、そして、申し訳ございません。ありがとうございます。

一步、一步、心を見てまいります。私を包んでまいります。己偉い私が出たら、またお母さんに思いを向けていきます。そうやって、私は、自分の時間を過ごしてまいります。ありがとうございます。

二二一、***さん、生活をともにしておられるあなたのお父さん、お母さんのことについて、あなたは、どのように思っていますか。

はい、私は、***でございます。私の心を見させてくれている両親です。私は、この両親から何かを学んでいかなければならない今の環境でございます。ああでも、私はとても己が偉いです。父や母の姿を見て、私の心がどのように動いていくのか、そういうことよりも、私は、もっと何かもつと違うものを感じていきたい、そういう方向に心が向いてしまいます。

年は取りたくないものですね。私は、両親の姿を見て、そのように思っています。三人でセミナーに参加させていただくことに喜びも感じますが、私の中には、その思いよりも、現実

の生活での心苦しきや、煩わしき、大変さが重く、重く、のしかかっています。すべてが肉でございました。

私自身、意識の転回がもう少し捗っていれば、両親に対して、肉ではない優しさ、そういうものが自然と流れていくのだと思いますが、私は、まだまだそのところに程遠い自分を感じています。

異語。

***さん、あなたもあなたのお父さんもお母さんも、みんな、同じなんです。みんな本当の自分を忘れ去って、他力の中に生き続けてきた意識、間違った方向に心を向け続けてきた意識、その意識達が今、親子の縁を結んで、今、互いに心を見させていただいている環境でございます。

どうぞ、それを喜んでいってください。まずはそこからでございます。お父さんやお母さんの姿を見て、あなたの動く心を見る、あなたの心から自然と優しさが湧き出てくる、そういう学びでございます。

この学びは特別な学びではございません。アルバートとか、UFO、次元移行、そうい

う言葉はございますが、今のあなたの現実の生活から、まずは自分の心を見ていく、その原点に立ち返って行ってください。

では、あなたのお父さんやお母さんが、どのような思いでおられるか、心を語ってみてもらいましょう。

はい、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

はい、私は、年はいつていますが、まだまだ気は若い、若いです。

誰にも負けたくない、まだまだそういう思いがしっかりとあります。自分のことは自分でする、そういう心で私は、日々の生活をやっていこうとしています。そして、この心を見る学び、私には難しいですが、ああしかし、田池先生と出会わせていただいたことを喜んで、毎日、毎日を過ごしていこうと思っています。

娘は、なかなか私の言うことを聞きません。ああでも、いいんです。そんな娘とともに、私達夫婦は学ばせていただいています。

私は、私の中は、頑固な思いが、まだまだいっぱいありますが、それでも、私は、今、嬉しいと思っています。

****さん、どうぞ、あなたも心を語ってみてください。

はい、私は****です。昔は色々とありました。色々と苦労してきました。ああでも、今、私は、この年になって、自分の身体が、今、動けるのが不思議なくらい元気です。

お父さんと娘と、こうやって生活をして、そして、この学びのこの話をする、それが私には、とても嬉しいです。

娘ひとりに迷惑をかけないように、私達夫婦は、なるべく自分達のこととは自分達でしょうと心がけています。でも、なかなか思いと行動が一致しません。許してください。でもこうやって、三人学ばせていただけることが、本当に嬉しいです。

異語。

****さん、どうぞでしょうか。どうぞ、親子三人、これからも学んでいってください。親子三人、異語で語り合っていますか。私は、その時間を持つことを提案します。

二二二、***さん、心を語ってみてください。

私は、***と言います。心の中の苦しみを、もっと、もっと、素直に出していきたい。ああでも、私のその出していきたいとする先にあるのは、素晴らしい私を見据えることです。すべては欲でございました。ただただ私が私を知っていくために今があることを、私は、もっと自分の心で知らなければならぬと思います。

必死に、真剣に、素直に、そういう言葉を、私は、欲の思いで聞いてきました。素晴らしい私というよりも、本当の私、広がる私、そんな私と出会いたい、そのために瞑想をする、私の苦しい思いを見る、すべてが本末転倒だったことを感じます。

***さん、異語。異語。…。

二二三、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、***です。頑なに閉ざしてきた私の中に、少しずつですが柔らかいものを感じ

ます。でも私は、またそれを感じた瞬間、自分の心を閉ざしてしまいます。とても己が偉いです。私は、今世もそうですが、過去より、ずっと修行をしてきた者でございます。修行をする心、その心は、とても冷たい、己に冷たい。己を律してきた私は、素晴らしいと思ってきました。でも、その波動、エネルギーは、とても、とても冷たくて、すさまじいものでございました。今世、私は、それを少しだけ感じさせていただいています。お母さんに向けてきた思いを、私の中で広げていくと、それが私の中に突き刺さってきます。

鋭いすさまじいエネルギー、冷たくて、冷たくて、凍えそうな刃が、私の中に、突き刺さってきます。これを、私は、お母さんの温もりで溶かしていくために、今世、生まれてきたのですね。

異語。

***さん、お身体はどうでしょうか。あなたも、大変な病気になりましたが、その時より、あなたの心は変わってこられたでしょうか。

異語。

自分が使ってきたエネルギーが、自分の肉体細胞を通して、自分に教えてくれている、頭ですが、そうやって、私は、肉体細胞に思いを向けてきました。

誰でもない、私のエネルギーが私に返ってきた、そのことを学ばせていただきました。今、身体はボチボチです。私の心の中に、恐怖心がないと言えば嘘になりますが、私は、この病とともに自分の心を見ていこう、そう思っています。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、心の中に私のすさまじいエネルギーを感じます。田池、田池、どうしても、田池留吉を憎んで恨んで、そういう思いを抱えてきた自分を感ずります。私が求めてきた道、修行をして求めてきた道、真っ直ぐに、間違っていますと伝えられました。

そのことを、私は、真正面から受けることができませんでした。ただただ、田池留吉に刃を向けている自分の思いを感じます。申し訳ございません。苦しい茨の道を歩いてきた私に、

間違っていると優しく促してくれたあなたに、私は、すさまじいエネルギーをぶつけてまいりました。

二二四、****さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

私は、****です。

田池留吉、申し訳ございません。申し訳ございません。

私は、すべて間違っております。私は、とても己が偉かったです。己が偉いということを、私自身、今の今まで、どういう意味なのか、私にはよく分かりませんでした。それが本当のところでございます。

それが、嬉しくて、嬉しくて仕方ありません。

異語。

どんなに、どんなに懺悔しても、私の中から、喜びが込み上げてきます。

間違っていたことが、こんなに嬉しかったなんて、私は、今の今まで分かりませんでした。

異語。

お母さん、ごめんなさい。お母さん、ごめんなさい。私は、そうやって、お母さんの反省をしてきたつもりでした。でも、それは全部つもりだったんです。

異語。

私は、小さい頃より、心がとても敏感でございました。その心の敏感な私は、なぜ、このように心が敏感なのかを、しっかりと見ておりませんでした。このどうしようもない私に出会わせていただくために、私は、心を敏感に、今世、お母さんに生んでいただいたのですね。それが、今、ようやく、感じられるところでございます。

長く、長く学んでまいりました。私は、それだけの時間が必要だったのです。私には、それだけの時間が必要だった、今、そのように思っております。

二二五、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。****という己を誇ってきました。

ちっぽけな****を誇ってきたんですね。今、私は、そのように思っております。

私は、アマテラスよりも、キリストを信仰してきました。キリストを神としてきた者でございます。アマテラスよりも素晴らしい存在だと思ってきました。キリストを神と崇めてきた私は、キリストこそ素晴らしい神として崇めてきた者でございます。

ですが、私の今世は、この日本の国に肉体を持ちました。

はい、あなたも、今世、この日本の国に肉体を持ったのですよ。そう、あなたの心の中にも、アマテラスの心が、たくさんたくさん残されています。アマテラスの心を心として生きてきた自分を振り返り、その心を、どうぞ、どうぞ、本来の自分と照らし合わせてください。

そして、そこから間違ってきた自分を知っていただく。

そのように私に伝わってまいりました。

そうですね、私は、はい、そのことをやってきませんでした。

愚かな私だったのに、私は素晴らしい、私こそ神、神、神、そのよう思っていました。

異語。

***さん、あなたは、あなたの霊能を誇る思いで、そう、ずっとやってこられたのですね。その反省が、あなたの中で進んでいますか。

異語。

私を、一番のチャネラーだとして、私の力をみんなの心の中に、広めていきたかった。私は、自分が過去から間違ってきた道そのものを、今世も歩いてきた。そのところを、私は、まだ深く見ておりません。

目を閉じて、自分の口から語る言葉に、私は、酔ってまいりました。

私の口から、スラスラと語る。人々の心を語る。私は、その心の奥底にあるエネルギーを思うことなく、ただそれを語ることができる自分自身を誇ってきました。

異語。

あなたは、今でも、まだキリストのほうに、心を向けておられますね。

タイケトメキチとあなたが心で思う方向は、そう、キリストを神とする方向でございます。

二二六、はい、***さん、最近どのようにお過ごしでしょうか。あなたの思いが届きません。あなたは、何を思い生活をしているのでしょうか。今の生活はいかがでしょうか。

私は、***でございます。私は、今、肉、肉、肉、でございます。

肉一筋でございます。ああ、はい、心の苦しきはそのまま、いいえ、もつとすごい世界を、私は広げています。肉の中で、私は肉にまみれて生きています。あれだけ、私が疎ましく思っていた夫を、この世から消し去りました。私は、これで、私の学びはできると思ってきました。私は、自由だ、全くの自由だ、何もかも自由の中で、私は、この学びをやっていいけると思ってきました。でも、大違いでした。私の周りには、次から次へと問題が起こってきます。夫が死ねば、次は、ああ、そう、息子達の問題が起こってきています。私は忙しいです。私の心は忙

しいです。

金、金、金、金、金……。金の中に私の心は埋まっています。

たくさんのものを持っています。ああ…、しかし、私のこの心の苦しさは、ああ…、少しも改善されていない。どうしてでしょうか。どうしてなのでしょう。

あの時、私は、思いました。私こそ素晴らしい、私こそ素晴らしい、私こそ、田池留吉の後を継ぐ者、私は、そのように思わせていただきました。なのに、今は、この有様です。田池留吉、私はあなたに見捨てられたと思いましたが。私を使うだけ使って、私は見捨てられたと思いました。私は、他の霊導者とは違うんです。他のチャネラーとは違います。私を別格に扱えと、はい、そのように思いを広げました。

異語。

はい、私の口を通して出るものは仕方がないと思います。ああ、この人は、今、このような状態なのか、私には、とても信じられません。

しかし、いいえ、そうなんだと思います。でも、私には、とても信じられないんです。心に感じたものは、全くの嘘だったのでしょうか。全くの嘘の世界だったのでしょうか。あなた

にとつて、お金は、そんなに魅力があるものでしょうか。たくさんの財産が、あなたの周りにはあると思います。でも、それが、いったい何なのでしょうか。あなたが、その肉体を置いていくとき、その財産を持っていけると思っているのでしょうか。

もちろん、思っていないはずですよ。でも、あなたの心は、しっかりと、それらを握っています。私には、そのことが、とても信じられないのです。

はい、それともうひとつ。私は、あなたの霊能というか、そういうものは、確かにすごいものがあると、私は思っていました。

ああ、でも違っていました。あなたのそれは、肉を基盤とするものでございました。はい、私のそれとは違っていました。

言葉をたくさん並べること、そう、意識を取れること、あなたは、今でも誇っています。でも、その根本は、肉、肉、肉、肉でございました。

二二七、***さんのメールのほうに思いを向けてみました。

異語。

はい、波動が非常に厳しいものを感じます。

確かに、この学びは、自分でし、自分の中でしていく学びです。自分が本来の自分に戻っていく道は、温もりを自分の中に思い起こし、間違ってきた自分に伝えること、その思いを自分に伝えること、それを、反省と瞑想を通してやっていくこと、肉を持つてくるのは、そのためである、それは、確かにそうですが、彼女からのメールに思いを向けると、とても厳しいものを感じます。まさしく、破壊、破滅のエネルギーを感じます。

そこで、私は、今、***さんに、夫のことについて語っていただくことにしました。どうぞ、***さん、あなたの夫のほうに心を向けてください。あなたの思いを語ってください。

はい、私は、***でございます。心の中に苛立ち、悲しさや、やるせなさ…、とても辛いものを感じます。すべてがこの男のせいだ、私の中にあるものすべてをひっくり返されているような気がします。

私達は、私は、少なくとも私は、決して望んで結婚したわけではございません。私の結婚の動機は間違っていました。欲で結婚した、そう、欲で結婚しました。その思い、今、とても私を苦しめています。あの人に対して、優しさが出てこない。

私を煩わせているだけの男ではないか。私の邪魔になる男ではないか。私の行く手を阻む者は、この男だ。そうやって、私は、何もかも蹴散らしている自分が見えています。とても苦しいです。とても苦しいです。

異語。

***さん、私は、この学びは、自分と自分の中で進めていくものだと、私も認識しております。しかし、私の根本にある思いは、優しさでございます。厳しいという思いの裏側は優しさ、優しさの裏側は厳しさ、それがお分かりでしょうか。

私は、私を捨て去った自分自身と、本当に出会わせていただきました。母の温もりを探し続けてきた私自身の心の叫びを聞かせていただきました。そこから、私の学びは出発しております。

私は、あなたに思いを向けると、あなたの己偉い意識が伝わってくるんです。お母さんの温もり、優しさだと書かれています。その温もりは、己の偉い自分を基盤になさっているよな気がします。

私は、そのように感じさせていただきました。しかし、反省と瞑想をやっていこうとする

あなたの姿勢、それは、それでいいと思います。

でも、その中で、本当の優しさと本当の温もりに出会っていつてくださいます。本当の優しさに出会っていけば、あなたは、まず、今の夫である人に対する思いが変わってまいります。当然、その人に接する肉の態度が変わってきます。今のところ、あなたには、それが、見受けられないような気がします。そういう点からも、あなたのこの学びに対する思いは、私とは違っていると思います。ですが、あなたは、あなたの道を歩いていつてくださいます。そこで、あなたは、また、自分が、自分に何かを伝え、何かに気付き、そして、やっていくだろうと思います。

二二八、***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***でございます。私は、息子を見るたびに、心が暗く沈んでいくのが分かります。息子には息子の人生がある、私には、そのように伝わってくるんですが、私は、どうしても、目の前の息子の様子が気にかかるのです。息子の心を少しでも、楽にしてあげたい、私には、そのような思いが、心に起こります。これは、私の他力の心です。

私は、そうやって、ずっと、今までやってきました。

それは、私は、母親としての役目だと、ずっと思ってきました。

子供の幸せを願って、子供の暗い顔を見れば、うつろな姿を見れば、私の中で、いてもたってもいられないような思いになる。それを、私は、よしとしてきました。

この学びを知って、そして、本を読んで、色々自分なりに、自分の思いを振り返るといふことをして、それが、どれだけのエネルギーであるのか、間違った方向に使い続けてきた自分であるのかを、少しずつ感じてきています。でも、私の心癖はとても強いです。

どうしても、目の前の肉に振り回されて…。ああ、それを、私の息子がそれを見せてくれているのだと、今、自分の思いを語って、心に気付くことができます。

ああ、あれは、私の姿だったんだ。息子ではなかった。息子を見る私の心だった。私は、そう、目の前の肉を見て、私の心を見ていけばいいんだ。でも、私は、目の前のことを、ああしよう、こうしようと、そのほうにばかり、思いが向いていた。

今、ようやく、自分の中で、少しそうだった、ああ、そうか。そうか、それを息子が見せてくれたのだと、自分の中で感じるところがございます。

異語。

***さん、あなたは、息子さんのほうに、心がとらわれてこられたようですが、あなたのご主人に対してはどうでしょうか。そして、あなたを生んでくださったお母さんのほうは、どうでしょうか。

息子さんだけではありません。あなたは、たとえば、夫であるとか、お母さんであるとかに、そう、すさまじいエネルギーを流してこられました。とても、とてもすさまじいエネルギーを流してこられました。

それは、自分が正しいというところにあったからです。自分の基準が、いつも自分は正しい、そこから周りを見て、あなたの心は、四方八方にちぢ乱れていったのです。特に、夫には、すさまじいエネルギーを流してこられました。

形は従順です。日本人にあるような、奥様の体裁を整えられてきました。でも、心の中は、とても、そんなところではございません。

それを、あなた自身、心を見て、そして、瞑想を続けて、あなた自身の心で感じていってください。

こんな心も使った、あんな心も使った、ノートに書き綴っていつってください。そして、その書き綴った思いを、目を閉じて、思ってください。

あなたの心に、すさまじいエネルギーが伝わってくると思います。

それが、あなた自身です。あなたが、過去から培ってきたあなた自身、それを、自分の心で感じていつてください。

二一九、***さん、思いを語ってみてください。

私は、***です。己の偉い私は、どこまでも己が偉い、それをつくづく感じます。

私は、長く学んできました。長く学んできた、そう、私は、やってきた、やってきた、やってきた、その思いがとても強いです。ホームページに載っている通りです。私は、やってきた、やってきた、やってきた、そこから、私の思いを解き放つことが難しいです。

異語。

あなたは、田池陽子さんに対して、献身的な接し方をされていますが、あなたの中の思いを語ってみてください。

私は、あの方を、神として崇めております。私の中では神なのです。田池陽子は、私の中では、神。まさしく、神の存在。私に力を与えてくれるもの、私に勇気を与えてくれるもの、そう、私は、あの方の手となり足となり、この身を使っていくことが幸せです。私は、そんな思いで、あの方と接しております。

異語。

***さん、その思いは、間違っていると、あなた自身感じられませんか。

あなたのその思いが、アマテラスに通じる心なのです。あなたは、そのことに、気付か
れていないのでしょうか。

はい、アマテラス、アマテラス、アマテラスこそ、我らの神でございます。私は、アマテ
ラスの僕となり、アマテラスの御許で、このすべてを捧げることが幸せだ、そのような転生を
繰り返しまいりました。

その心で、ずっと過ごしてきました。私は、だから、アマテラスのパワーを得ているのです。
私は素晴らしい、そのような思いで、君臨してきました。私は、支配するエネルギーが、とて

も強いです。私の言う通りにすれば、大丈夫。私には、才覚があるんです。私は、何も間違っていない。

そのような思いが、とても強い。それを前面に出して、私は、今世もやってきました。夫が病気になったときもそうでした。私のこの力で、お前の病気など治してやる。私に心を向けよ。私にひれ伏せ。そのような思いで、夫に、必死になって伝えました。私のアマテラスの心を伝えました。

そう、私のアマテラスの心を伝えたのです。

異語。

二二〇、****さん、思いを語ってみてください。

私は、****と言います。他力の思いを見てきました。他力信仰に使ってきた思いを見てきました。

他力のエネルギーにがんじがらめの自分の心を見てきました。すごいエネルギーでござい

ました。

もし、この学びに出会わなかったら、私は、私の出すエネルギーで、間違いなく自滅して
いたことでしょう。

主人の出すエネルギー、それは主人ではありませんでした。私でございました。

あなた方ご夫婦の生活をされているところは、この学びからすれば、とても厳しいところ
だそうですね。大変なご苦労があつたと思いますが、今はいかがですか。

はい、それはもう大変でした。自分達の思いを、この土地の人達に理解してもらうことは、
ほとんど不可能でございました。

しかし、私達は、自分達の信じる方向に進みたいと、そのように思ってきたんです。

自分の培ってきたものが、今、目の前に広げられている、私達が、ここで生活をするにふ
さわしい、そのように思ってきました。

自分達の心を見る、最も適した場所だと思えたのは、本当に、学びを始めてから、何年も、
何年もしてからでした。

孤立していくのが分かるんです。ですが、ここで、留まらねば、私達が、今世生まれてき

た意味がないということ、それぞれが心で感じていったのかもしれない。今思えば、本当によくやってこれたと思います。

厳しい道を、自分達が予定してきたんですね。それほど、私達は、本来の自分に帰りたいという思いが強かったということだと思います。

それで、すべてがうまくいっているとは言えません。まだまだの自分達ですが、確かに、この心を感じる喜び、幸せは、私達が、これからの転生をしていく中で、とても大きなステップになると思います。

二二二、***さん、思いを聞かせてください。

私は、***です。私は、鈍感ではないんです。心に響いてくるものがあります。そう、心には響いているんです。なのに、私は、この肉体を通して、自分のエネルギーを出せないまま、今日まできました。

それが、とても、苦しいです。心に響くものがあるのに、なぜ、この肉体を通して、このエネルギーを出していけないのか。

私は、これまで、何度も何度も、そのところを、自分の中で見てきました。

そうです、肉の頭がとても、でっかいんです。肉の頭がでっかい、肉で、すべてを処理している、そのように、私に、返ってきました。

心を感じたものを、頭へ持っていく、頭で処理ができるものだと思っている、その頭でっかちが、この肉体からエネルギーを出すのを留めているような気がします。

ああでも、心の中に感じているものがある。田池留吉の肉を見るたびに、そして、私なりに母を思うたびに、心に突きあがってくる思いがあります。

異語。

あなたは、お母さんに対して、どのようなエネルギーを感じていますか。

どうぞ、語ってみてください。

はい、私は、あの母親が大嫌いでした。大嫌いです。何もかも、四角四面に、すべてを四角四面にとらえることしか能のないあんな母親を、私は、能無しだと見下げ続けてきました。

どこまでも己が偉かったです。母親を見下げ続けてきました。母の姿を見るたびに、この

心から、どうしようもない思いを感じてきました。

異語。

ああ、私は、寂しかったんですね。私は、お母さんに、もつともつと甘えたかった。お母さんの懐に、何も考えずに飛び込んでいたあの頃を思い出すとき、私は、そう、今の自分があまりにも、みじめな自分を感じてしまいます。

小さい頃は、あんなに素直に母の胸に飛び込んでいったのに、私は、いつの頃からか、それができなくなりました。母を見下げる思いが、私の前に、しゃしゃり出て、あんな母親に、私の思いが分かってなるものか、その思いが、自分のこの素直な思いを、押し留めていつてしまいました。

お母さんは、すべてを、受け入れてくれていたんです。でも、私がそれを、せき止めていました。

異語。

あなたは、奥さんに対して、今、どのような思いを持っていますか。

はい、もう少し、しっかりしろと、私は言いたいです。夢の中で生活しているんじゃないんだ。しっかりとして生活を送れと、私は、ことあるごとに、彼女に言ってきました。

私の厳しさを、彼女は、どのように受けていったのかは知りませんが、私は、そう、自分の家族を守るのに、ふさわしい人になってほしい、そのように願ってきたんです。

二二二、***さん、あなたの心の中にあるアマテラスの心、その思いのままに、あなたは、今世、その肉体を使つてこられました。

宗教団体の中で、あなたは、高い地位にあったというのですが、本当にあなたは、その時の思いを、振り返つてこられましたか。

私は、***でございます。随分と年を取ったものです。ですが、私の中は、まだまだ…。あの当時の思いに立ち返ったならば、私の中から、まだまだ、すごいエネルギーが飛び出きます。しかし、この肉体は、それに応えることができただけでございます。

私が心を見て、あの時分の、あの当時の私の思いを振り返り、その思いを、心の中で解き

放していく、その道筋には、まだまだ程遠いところがございます。

私の中には、その優しさが無い。本当に自分とともに歩いていこうとする優しさがなかった。今、そのように思います。

おっしやる通り、私は、○○○○で、高い地位についてまいりました。人を導いてきました。頭で理解したことを、この口を通して語ってきました。

そして、私は、この学びに集ってからも、チャネラーという人を、追いかけて回しました。あの人は、立派なチャネラーか、この人が、立派なチャネラーか。その人達から、何か、教えるという思いで、全く欲の思いで、私は、その人達を、特別な目で、見てまいりました。私も、特別な目で見られたかったです。

その思いが、ずっと、私の中で引きずっている。今でも引きずっております。しかし、私のこの肉体は……。年齢とともに、肉体を動かすエネルギーが萎えてきているように思います。

でも、それは、肉体の法則からで、私の中には、まだまだエネルギーが、燃え尽きています。そのような感じがします。

もし、私が、もっと若ければ、そして、***さんと声をかけられれば、私は、即座に反応していくでしょう。それほど、私のエネルギーは、まだまだ、衰えるところはありません。

二二三、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

はい、私は、***です。肉の思いが強い私にとって、この学びは、とても難しい学びでした。肉のすべてを否定されているようで、私は、最初は、反発の連続でした。しかし、その私と裏腹に、心は、どんどんどんどん惹かれていくのが分かりました。自分の中から、すさまじいエネルギーを感じるのに、肉は、それを押し留める、その私の中の葛藤は、すごかったです。崩してなるものか、いや崩していけ、崩してなるものか、いや崩していけ、その中で、私は、ずっと過ごしてきたような気がします。

私にとって、大きな気付きの時がありました。それは、すべて自分が流してきた結果なのだと思っ入れていこうとする思いと、どうしようもないほどの恐怖の中で、私は、自分を振り返らざるを得ませんでした。

自分を静かに見つめていったとき、自分の中に、どうしようもないほどの、本当にどうしようもないほどの愚かな私を、感じさせていただきました。

自分が、かわいそうでたまりませんでした。

すべてを押さえ込んで、私が手に入れようとしてきたものは、何だったのだろうか。空し

い思いを感じました。

それでも、まだこの肉を、どこまでも、握って離さない思いと、私は、日々対面してきました。心の底にある祈りに通じる心、思い、まだまだ自分では、出し切れていないような気がします。どこまでも肉を守っていかうとする、そのために祈り続ける私自身の世界があります。焦らずに、たゆまずに、真摯な思いで、私は私に、そう言い聞かせて、自分の一歩を踏み出せるように、やっていきたいと思えます。

心をタイケトメキチに、心をお母さんに、それしかないのですね。

二二四、***さん、あなたの心で感じる世界を語ってみてください。

私は、***です。私の中に宇宙が広がっている、宇宙が広がっている、宇宙が広がっている。このように私は、みんなに、みんなに伝えたいんです。私の中の宇宙、みんなに、みんなに伝えたい、そのように思っています。ああでも、この宇宙は、ブラックです。

ブラックの宇宙を感じています。まだ私の中では、ブラックです。己を表す思いが、とても強いです。この思い、とても強い。

****という名前よりも、私の存在そのものをもっと表していきたい、そのような思い
でいます。

****さん、バシヤール、あなたが心に留めているバシヤールの世界を、そうあなたの
心で感じていつてください。

異語。

戦いの世界です。戦いの世界です。苦しい世界です。苦しい世界です。私の中には、苦し
さしかない。温もりがない。安らぎがない。これだけ苦しいって、あなたに伝えているんです。
なのに、私を、あなたは受け入れてくれない。それが苦しいです。私は苦しいです。私は、苦
しい、苦しいって、あなたに訴えているのに、あなたは、その私のエネルギーを利用して
私のエネルギーを膨らませているに過ぎない。それでは、私は、とても苦しい。

私は、本当のことが知りたい。私も本当の姿を知りたい。私に伝えてください。安らぎを
伝えてください。温もりを伝えてください。

異語。

***さん、どうでしょう。あなたの心で感じられましたでしょうか。どうぞ、その思いを、自分の中で受け止めてください。その思いを、膨らますのではなくて、思いを受け止める。それには、あなたが、お母さんの温もりを、心の中に、もっともっと大きくする、そういうことが必要だと思えます。お母さんに産んでいただいた、あなたの小さかった頃を思い出してみてください。

異語。

二二五、***さん、あなたは、毎日、毎日、田池先生のところに、メールを送られています、どのよう、お勉強なさっているんでしょうか。

私は、***です。私は、この苦しい心を、苦しい思いを、誰かに聞いてもらいたくて、私は、メールをしています。

分かったような文章を綴っていますが、心の中に響いてくるものは、私を認めろ、認めろ。私は苦しい。誰か私の言うことを聞いて。私を認めて。そうだね、そうだねと私のことを認めて。私は寂しいんです。私は苦しいんです。

そう、この思いを、誰かに聞いてほしかったんです。

私の学びは、はい、とてもとても…。本来の軌道からずれている、なんていうものではない。ただただ、思いつくままに、私は、メールを打ちます。その時の気分次第で、打ってしまいます。心を見ているようで、見ていない。ただただ、自分の気持ちのままに、はい、心は、どこに向いているのかなど、確認をせずに、私は、思いを打っているだけなんです。

***さん、あなたは、何度かセミナーに来られたようですが、そうですね、一度、セミナーに来られて、しっかりと自分の目で耳で、そして、心で感じるということをしてみませんか。

はい、セミナー参加ということ、目にしたり、耳にしたりするとき、ああ、なんて不公平な世の中だ、私は、セミナーに行けない。セミナーに行ける人はいい。私は、セミナーに行

けない。行けない状況なのだ。金銭的にも、そして、私は、そんな状況ではないことを、恨めしく思います。

だけど、そう、セミナーに行つて、勉強をしないと、私は、同じところを、グルグル回っているような、そんな中から抜け出せない、それも感じます。自分の思いを打つと打つたつて、私の基本は、肉、肉、肉なのだから、その中で、どれだけ、思いをぶちまけても、結局は、そこから、抜け出すことはない。その中で、私は、嬉しいだの苦しいだの、ああ、こんなことを感じたとか、それをやっているに過ぎないことを感じています。

二二六、***さん、あなたの心は、とても暗いですね。苦しいですね。
苦しい思いを吐き出しているあなたの心の底にあるものは、何でしょうか。

私は、そびえ立っている自分を、まだ自分自身、しっかりと確認しておりません。苦しい自分の心を、暗い自分の心を、吐き出す自分が、どれほどそびえ立っているのか、その私自身を、私は、まだ確認しておりません。

それほど、私は、そびえ立っているということなんでしょう。

そびえ立っているから、ただ苦しさをぶちまけているだけ、暗いところへ、自分を自分で追い込んでいくだけ、そびえ立つ自分があるだけです。

異語。

***さん、あなたの心は、敏感なはずです。そう、闇に敏感なんですね。その心の向け先を、もう少し、自分で確認してください。

そのために、あなたには、色々な人がいます。あなたの周りに寄ってくる色々な人がいます。お母さんの反省はどうでしょうか。

お母さんに対する思いを、もっともつと見ていってください。

二二七、私は、***と言います。

心の苦しさを、私は、どのように伝えていいのか分からない。

心が苦しいんです。心が苦しいんです。ああ、でも、私の中に詰まっている思いを出すことが、恐怖でございます。

はい、私は、人間というものを、自分なりに、感じていこうとして、今の仕事をしています。人間の心を知りたかった。人間の心の奥を、もつともつと知りたかった。だけど、私の進んでいる方向は、全く違っている方向です。その苦しみを、自分の中で認めることが怖いんです。それを、認めれば、私が私でなくなる。私が私でなくなる。私は、いつたい、何を頼りに生きていけばいいのか、そんな自分を感じるんです。だから、手放したくありませんでした。

私の身体は、病んでいます。はい、とうとう、この身体に出てきたことを感じています。身体を鍛え、健康な自分を保つこと、私は、そのことを一生懸命にやってきました。ですが、私の身体は、今、蝕まれているんですね。

はい、しかし、私は、それを、自分でも驚くくらい、冷静に受け止めております。人間、いつかは死ぬんです。そう、いつか、人間は死ぬ。

私は、ずっとそのように思ってきました。ただ、どのようなことで、死んでいくのか、そのことについては、未知な世界であり、私に不安と恐怖があります。しかし、人間は、いつかは、死ぬ。そのように自分では思っております。

私の肉というものは、そこで行われていることに、拒絶する思いがございます。しかし、なぜ、

私は、このセミナーに参加しているのだらうと、ふと思うときがございます。心の底から、セミナー会場に行ってみたいと思うことは、あまりないと思いますが、ですが、何か心が惹かれるのを感じます。

それは、何なのか。この肉を通してしか私は、私を語ることができない今、それはとても、もどかしく思うのも事実です。

あなたの命が長らえるとか、再び、健康な身体を取り戻すとか、そういうことよりも、あなたは、あなた自身をしっかりと振り返る、本当に自分自身を振り返る、あなたの生まれてきた意味を振り返る、あなたのお母さんを思ってみる、その大きなチャンスではないでしょうか。あなたが、おっしゃるように、人間は、いつかは死ぬんです。

しかし、その今の肉体を、あなたが離れた後の世界を、あなたは、自分自身の心で知ろうとはしません。もちろん、あなたの意識は知っています。

だから、恐怖を感じているんです。残された肉の時間の中で、ほんの少しでもいいですから、あなた自身の今まで歩いてこられた道の方向を変える方向に、進んでいかれたらと思います。

二二八、***さん、反省は進んでいますか。あなたの目指すところは違っていることを、お伝えしました。どうでしょうか。素直に受け入れていただけましたでしょうか。

はい、私は、***です。何度も、何度も、あの時のことを思い出し、私自身、心を見るところを繰り返してきました。

でも、心の中にあるものは、私はやってきた、私は、やはり、やってきたという思いが、とても強いのです。

田池、お前は、私を認めたじゃないか、そのような思いが、ふっと出ます。***という看板を、降ろしたくても降ろせない自分の心の中、とてもすさまじいエネルギーを感じます。私は、こんなに感じているのに、じゃあ、私の感じたものは、何だったのか、あの時のことを思い出すとき、その思いが、ふっと、まだまだ心によぎります。

心癖って、しつこいですね。ああでも、私自身、どんなに何を語っても、あなたは、意識の転回ができていないから、そうなんですよと、あっさりと切られてしまうような…。そうですね、あっさりと切られてしまうんですね。私が何を語ろうが、意識の転回ができていない人は、もう、口から発する言葉など、ブラックに決まっている。そう、あっさりと、切り捨てられる、そんな心が湧いてきます。

異語。

***さん、私は、塩川香世と言います。

私は、あなたに、そういうことを、お伝えしたいのではないんです。

もっと、素直になつて、あなた自身、今世、肉体を持って、そして、セミナーに参加できて、そういうところを、もっと、心を見るところを通して、感じてほしいんです。

あなたの中の思いがそうさせているのです。

なぜ、今世、日本の国に生まれてきたのか。

なぜ、あなたは、セミナーに集つてきたのか。

そして、チャネラーということで、己を表し、己を落とし込め、その過程を歩んできたのか。そういうところを、もっと、真摯になつて、自分を振り返るということをしてほしいんです。

そうでないと、せっかくの今世のチャンスが、ほとんど功を奏しません。

どれだけ意識を受けようが、どれだけ心で感じようが、あなた自身の根底が変わらない限り、と私は、やはり、申し上げます。

異語。

だいたい、あなたは、何なのですか。私は、あなたの上を行っていた者なんですよ。あなたに何も言われたくない。その思いが、私の根底にあります。

はい、その思いを、包み隠さずに、どんどんあなたの中から、出していってください。いかに、あなたが、肉にとらわれているか、私の肉にとらわれているか、あなた自身の肉にとらわれているか、その思いにぶち当たるまで、どんどんその心を見ていってください。

私は、あなたを感じるけれど、あなたの上にある者だと思っ、一切ありません。なぜならば、私は、私自身の勉強で、一生懸命だからです。私の道筋を、しっかりと歩いていくための時間と空間を、私は、一生懸命に過ごしています。あなたも、そのようになさってくださいと、そういう思いから、私は、あなたに伝えさせていたいています。

二二九、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。心に秘めてきた他力のエネルギーを自分の中から噴き出すのを、私は恐れています。すさまじいエネルギーを、私も蓄えてまいりました。ああでも、己の世界を崩していくことを、私はまだ躊躇しています。どんな私でもいい、どんな私でも私は受け入れていくだけの思いがある、私は、そこまで至っていないと思います。怖いんです。出した後、その後、自分はどうなっていくんだろうか。私は、肉の世界が崩れていくことが、とても怖いんです。

****さん、大丈夫ですよ。あなたの周りには、学んでおられる姉妹があります。そして、何よりも、あなた自身が、お母さんの温もりを心の中にしっかりと持っていたならば、どんなあなたでもあなたは受け入れていけるはずですよ。

お母さんの温もりを、あなたは感じていますか。躊躇しているということとは、お母さんの温もりをまだまだしっかりと心を感じていない、その証拠でございます。お母さんの温もりを感じてみてください。

すごいエネルギーでも、それがとても嬉しい、お母さん、ありがとう、心の底の底から湧き出てくる思い、その思いに、あなたは出会うと思います。肉のあなたはいつでもいいんです。肉のあなたにまつわる世界はいつでもいいんです。ただただあなたの心の底からの思いを信じ

て、どんどん出していってください。

一三〇、***さん、あなたの心は、どこを向いていますか。

私は***です。心がどこに向いているか、そう、私は、私のこの肉に向いています。自分の思いを中に向けるということを、私はあまりしていません。心が外に、外に向いている目を通して、耳を通して、私の中に入ってくる情報に心に向けています。

ですが、私は、心が肉に向いている私の中を私自身が見るように、促しています。この心の中にすさまじいエネルギーを蓄えてきたその一端を、今世の環境を通して、自分に伝えています。

***さん、奥さんについて、どのように思っていますか。

はい、私によく尽くしてくれる妻だと思います。でも、心の中のエネルギーはすさまじいものだと思います。なぜならば、それが私自身だからです。彼女を通して、私を見ているよう

なときがございます。私は、肉の私は、ほとんどそれを肉として流しています。私の中は、彼女のエネルギーを感じるにつけ、自分自身を見ている、はつきりとそう言えます。

私は、この学びをしながら、心がそちらのほうに向いていない、それは、自分でもよく分かります。心の苦しきさだとか、そういうものを、全く見ないようにしているような自分があります。

心に蓋をして、これからも生きていくのかと、私は私に伝えているけれど、まだその返答がきていません。肉として生きていくことの苦しさを、私は、私にもっと伝えていきたい、今そのように思っています。

***さん、奥さんは、自分のエネルギーを出すことが恐怖だと語られました。あなたも同じでしょうか。

はい、そうです、私も、全くその通りだと思えます。心を見て、自分の中の間違った思い、狂った思い、ヘドロのような思いを見なければ、私達の肉での生活が崩れていくような、そんな恐怖心があります。

だから、私達は、今一步、足を踏み出せない、そんなジレンマの中にあると感じていると

思います。ああでも、それが、そう、崩れていくのが、もう間近だと、何かしらそういうふうな感じがいたします。

二三一、***さん、心を語ってください。

私は、***でございます。どこまでも、いい子ぶりっこの私があります。どうしても崩していけない自分があったんです。恐怖でした。怖かった。自分を崩していくことが怖かった。どれだけそびえ立っていたか、アマテラスの心のままに、私は、ずっと存在してきました。アマテラスを神として、アマテラスを素晴らしい神として、私は、存在してきた自分を、美しく飾ってきました。

崩してなるものか、崩してなるものか、そうやって、私は、自分を繕ってきたんです。その心は、とても苦しいです。とても苦しいです。

異語。

***さん、あなたは、タイケトメキチと素直に呼べますか。

心でタイケトメキチ、タイケトメキチと呼んでみてください。

タイケトメキチ、タイケトメキチ…。くそつたれ、くそつたれ、くそつたれ…。

私の中にくそつたれがこだまする。まだまだ、ずっと、ずっと、ずっと、ずっと、心の奥底に、くそつたれがある。

私のくそつたれを出すエネルギーは、まだまだ浅いです。今、それを感じています。自分を繕いながら、くそつたれのエネルギーを出してきた。ああ、そう、言葉で表現するなら、そんな感じです。

自分をどこまでも繕いながら、くそつたれ、くそつたれって叫んでいた私の学びは、とても浅いことを感じました。

とても浅い。自分を繕いながら、崩していこうなんて、全く矛盾していることを、私は、平気でやってきた。でも、これが、私が、セミナーにずっと通ってきた今現在の私でございます。

でも、私、***は、これを認めたくない。認めたくない、認めたくありません。

異語。

***さん、心のきれいな人なんて存在しないんですよ。私は、真つ黒だから、みんなどうしようもない真つ黒だから、生まれてきた、そう、私はお伝えしました。そのことを、本当に心で感じていったなら、あなたの心の中には、本当の喜びの思いが、響いてきます。

小手先だけの喜びではなく、上辺だけの喜びではなく、もっともつと心の底の、底の、底のほうから響いてくる喜び、それをあなた自身、感じていってください。

二三二、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、***でございます。私のどこがどのような間違ってきたのか、長く学んできたけれど、私もやはり、自分の奥深くを見てこなかった、今、そう思います。己が偉すぎました。そびえ立ちの自分からは、何も伝わってきませんでした。いいえ、心に色々伝わってきますよ、私は敏感だから。だけど、それは、すべて、己を表すためのものでした。

亭主を尻に敷きたかった。すべて、私の思い通りにしたかった。この心が、どこからくるのか、私は、その奥の奥を見ることなしに、ああ、こんな心を使った、こんな思いを流してきた、間

違ってきた、そういう反省で留まっておりました。

心を学びから全く離すということは、ありませんでしたが、今思えば、少しずつ、少しずつ、私の心は、学びからズレていたのだなあと感じます。

最近、セミナーに行くことができるようになって、なおさら、それを感じます。

間違ってきたなあ、間違ってきたなあ。何を私は、いったい学んできたのだろうか。そんな思いが心が上がってきます。

心を素直に自分に向けていきます。お母さん、私は、大バカ者でございました。他力の中に埋もれたままの私に、本当に、私に肉をくださいました。ありがとうございます。本当の自分の思いに、少しでも、応えていけるような今世でありたい、心からそのように思います。

二三三、***さん、心を見ていますか。

私は、***です。寂しい心を抱えてきた私にとって、アマテラスは、私の心を癒す大きな大きなものでした。私は、アマテラスに心を捧げてきました。アマテラスは、とても大きな、大きな、私の守り神でございました。私の心は、アマテラスに吸い寄せられるように、そう何

度も転生を重ねることに、アマテラスを求めてまいりました。アマテラスの心を心として生きてきた者でございます。

***さん、あなたも今世、この学びに繋がりました。そして、あなたの周りには、苦しみ喘いでいる意識達があります。どうぞ、その人達と本気になって、自分を見つめていってください。

親子になったのも、夫婦になったのも、決して、偶然ではありません。あなたの中のアマテラスの心を、今世こそは見てみよう、そうやって、自分で決意されたから、今の環境があります。どうぞ、自分の心から目を逸らさずに、アマテラスの心をもっとしっかりと見ていってください。

アマテラスはあなたにとって、大きな守り神だとおっしゃいましたが、どうでしょうか。アマテラスの心を、もっと自分の心で感じてみてください。アマテラスは冷たく、暗い、寂しい、そんな中に生き続けているあなたの心そのものでございます。どうぞ、ともに、心をお母さんに、本当の自分に向けるように、日々心がけてみてください。

二三四、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。すさまじいエネルギーを求めてきた。

私の中に、苦しい、苦しい、苦しい、もう瞑想するな、もう何も見たくない、何も聞きたくない、田池留吉、そんなもの信じてやるものか。そんな私が感じられます。ああこれが、私が過去から培ってきた私なんですね。他力のパワー、ブラックのエネルギーなんですね。今、それをつくづく感じています。

****さん、心をしつかりと見ていつてください。瞑想をする前に、あなたは、あなたを生んでくださったお母さんをどのように思っていますか、そういうところを、きちんと確認して、瞑想を続けてこられましたか。

お母さんの温もりはどうでしょうか。ただ闇雲に瞑想をしても、あなたは、あなたの中で混乱が起るだけでございます。

お母さんの温もりを思い起こすこと、そのことをしっかりと踏まえて、瞑想をやっているかどうか、

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん……。

二三五、****さん、あなたはチャネラーとして、****という己を表しておりませんか。今もその思いは、出てきているのではないのでしょうか。

あなたの反省文を、時々読ませていただいております。どれだけ言葉を綴られても、その心の底に流れるエネルギーは、****を表すエネルギーでございます。

あなたは、ブツタとして、その思いを口から語られたことがございますね。その当時を振り返り、今を振り返り、あなたの心を語ってみてください。

私は、****と言います。確かに、己を表してまいりました。己こそ、素晴らしいチャネラー、私は、田池留吉の片腕として働く者だと、私自身、思ってきたのは事実でございます。そして、今も、その思いを引きずっているのかもしれない。薄くなったかもしれないが、心の底に流れるエネルギーは、その思いで、いっぱいだと思います。

ああ、田池留吉に認めてもらいたい思いが、心の底に眠っている、それを、私自身、心を見るということを通して、まだまださらけ出しているわけではございません。

私は、己の霊能を誇ってまいりました。ブツタを自分の口から語った当時は、それは、それは素晴らしい者だと、密かに思ってきました。

私を崇めよ、私を素晴らしい者と崇めなさい。私は、素晴らしいんですよ。私のこの口から語る言葉を、みんな、心して聞くんですよ。

そのような思いで、チャネラーを続けてきました。

異語。

はい、そして、私は、最愛の息子を亡くしました。心が落ちました。

心を見てきて、私は、この学びを熱心にやってきたのに、私は、この現象に出会ったとき、私の心は、どうしようもなく落ち込みました。

なぜ息子が、なぜ息子が。なぜ、私の最愛の息子がと、その思いから抜け出すことは、とても辛かったです。

心に向けようとなりました。田池留吉のほうに向けようとなりました。

本を読みました。でも、私の心の中に響いてくるものは、やるせなさ、悲しさ、辛さ、そして、神を憎む、神を恨む思い、色々な思いが交錯して、なかなか、自分の心を見ることができなかつたというのが、実際でございます。

異語。

率直にお伺いします。あなたは、私、塩川香世という人物をどのように見ておられますか。ありがとうございますを読まれたと思います。その感想を、私は、肉を通して聞かせていただきました。今、あなたの思いを一度聞かせてください。

はい、私は、正直に言いまして、とても驚いています。私は、あの人を知っているんです。昔から、私は、あの子の親戚の人を通して、あの人を見てきました。

何ということもない普通の人でした。当時は、私を上において、語ってきたことも事実です。私の喜びを伝えたことも事実です。その思いで、伝えたことも事実です。

でも、あの当時、なぜか、この人に、私の思いは通じないと思いました。

肉では、私に合わせてくれているような気がするけれど、心で、ピシヤリと私の思いを止

めているような、そんな思いを感じてきました。

なぜなんだろうか。その時は、そう軽く受けていました。

でも、私は、ずっとずっとこの人の上にそびえ立っていたからです。

私の思いが通じないのは、この人が、私のことを理解していないからだ、そういうふうに軽くとらえてきました。

でも、今、思いを語って、私を振り返ると、あの時からすでに、この人は、私の心が目指しているものが違っていることを感じていたのだと思います。だから自分の心に、そのまま入れているなかったんだということを、今、感じています。

はい、私には、少し、距離がある、いいえ、ずっとずっと距離がある人だと感じています。私は、どれだけの思いでもって、この学びをやり続けても、その足元すらにも、行けないような気がします。

私は、ずっと、ずっと、そう、遠い人のように感じています。

私の思いを、即座に感じて、あなた、それは少し違いますよ、あなたの向ける方向が違っている、あなたの心をもっと見ていきなさい、そのように言われるような気がします。

二三六、 ****さん、いかがお過ごしでしょうか。他力の反省は、捗っていますか。

私は、****と言います、田池留吉、田池先生、私は、田池先生に会いたいです。他力の反省、私は、他力の反省をずっとずっとやってきました。

でも私のこの心の中には、まだまだまだまだ他力に使ってきたエネルギーが無尽蔵に残っているを感じます。今は、少々元気がございません。

異語。

自分の歩いてきた道が、すべて間違ってきたことを、今世ようやく、自分に知らしめるこの時に、私は、まだこのような状態でございます。

ああ、でも、焦らずにゆつくりと、自分の道を歩いていきなさい、そのような思いを感じながら、また、私は、歩いていくと思います。

異語。

***さん、奥さんと仲良くやってらっしゃいますか。奥さんはいい方ですね。奥さんに優しくされていますでしょうか。

はい、妻はとてもいい女性だと思います。私には過ぎた女性だと思います。私達は、ともに学べることを喜びとしています。

私は、まだまだ他力のエネルギーにどっふりでございますが、少し、その中からほんの少しでも、自分の間違いに気付いていけることを、嬉しく思っているのは、家内がともに学んでいるからだと思います。

私一人なら、到底ここまでやることができなかつたと思います。そんな家内を私は、見下げ続けてまいりました。己こそ、素晴らしい、そのような態度で、彼女に接してきました。大バカ者でございました。

異語。

二三七、***さん、どうぞ、思いを語ってみませんか。

私は***です。心を語るということを、私は、してこなかったように思います。こんなことを思っているとか、こんなことを感じているとか、そういうことは、語ってききました。でも、自分の心の中にある思いを語るということを、私はしてこなかった。セミナー会場に行つて、話を聞かせてもらつたり、現象を見たりして、私は、今、そのように思います。

***さん、自分の心を語るということは、あなたにとって恐怖なのでしょうか、どうなんでしょうか。

はい、そうですね。恐怖と言えば恐怖。でも私は、自分の心を語ってみたい。自分の心の中にある思いを、何だか自分自身知らないような、そんな気がします。だから、語ってみたいと思います。でも、語りなさいと促されて、さて、何を語ろうか、今、自分は何を思っているのだろうか、そんなところで立ち止まっているような自分も感じます。

***さん、あなたのお母さんについて、どんな思いを持っていますか。

はい、私は、そうですね、私は、皆さんがおっしゃるように、お母さんを、うつとうしいとか、憎いとか、そういう思いで見てもなかったです。

私は、母を美化してきたのかもしれませんが、心の中にある母に対する思いを、私自身がまだよく見ていないからかもしれないませんが、私には、それほど、母を憎む思いとか、見下す思いはないように思うんですが…。

今はまだそのところについて、語りたくないというのが実際のところでしょうか。

では、***さん、この学びに繋がったことを、どのように思っていますか。セミナー会場に來られて、奥さんとかそういう人達と学びを進めていくということについて、あなたの思いを聞かせてください。

現実の世界とかけ離れた世界を、私は垣間見たようなそんな思いです。セミナー会場で、見たり聞いたりして、そうだと納得するところもありますが、いざ、現実の世界に戻っていくと、ただ現実はどうじゃないか、今は厳しい現実が広がっていることを感じ、学びと現実とのギャップを感じます。

学びを続けていくかどうか、はい、学びに心惹かれるところもありますが、私には、やはり、

今、目の前にある生活の時間のほうが実感としてあり、そちらのほうに心が向いていつているようです。もう少し時間をください。学びをすべて否定しているわけではありません。ああでも、私には、もう少し、時間が必要だということを、感じます。

二三八、***さん、今のあなたの状況を、どのように感じていますか。

学んできたつもりでした。でも、私の心の中から出てくる思いは、すさまじい思いです。どんなに心を見よう、お母さんに、田池留吉に心を向けようとしても、このすさまじいエネルギーが上を行っている、覆いかぶさっていくような私の心の世界だと、感じています。

今の私の状況は、とても苦しいです。でも、苦しいからといって、この学びから離れていくわけにはいきません。

なぜならば、私は、自分の心を見るために生まれてきた、それは、はっきりと感じるからです。苦しいけれどもやっていくしかありません。今、私は、そのように思っています。

***さん、どうぞ、心を田池留吉に向けてみましょう。

異語。

田池留吉、田池留吉、お母さん、間違つてきた自分の思いが心に感じられます。苦しいけれど嬉しい、苦しいけれど嬉しい、間違つてきた自分が嬉しい、今、そのように思います。お母さん、私は、この自分の心を見てまいります。この中で、自分の心を見てまいります。

***さん、あなたの娘さんに、どうぞ、心に向けてみてください。

異語。

お母さん、私は、あなたから生まれてきて、そして、この学びに集わせていただきました。私は、ここから学んでまいります。お母さん、私は、心を見るために生まれてきました。お母さんから生まれてきました。お母さんやお父さんの思いを、心に感じます。ああでも、それは、私の勉強でございます。心を見てまいります。これからの私の人生、肉の時間の中で、心を見てまいります。

異語。

二三九、****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。自分の心の苦しさに、私は戸惑っています。

これだけの苦しい自分があるのか、今、私は、肉に響いてきている苦しさを、自分自身もてあましている、今そのような状態でございます。

肉の忙しさにかまけて、私は、自分の心を見てくださいませんでした。

すさまじいエネルギーを溜め込んできた自分の心を、置き去りにしてきた私にとって、中から突き上げてくる苦しさは、肉の私に戸惑いだけを感じさせます。今、私は、中の苦しさをどのようにしていけばいいのか、手探り状態です。その中で心を語っています。

苦しい、苦しい、助けてくれ、そんな思いが、私の中から、どんどんどんどん、出てくるのを感じます。

***さん、お母さんの反省をされましたか。心の中の苦しさを、そうあなたは、今、ようやく感じられるようになってきたところでございます。それは、今に始まったことではありませんでした。ずっと、ずっと、自分が自分に訴えてきていたけれど、あなたは、それに気付かなかっただけです。今、ようやく、自分の中にその苦しさが響いてきた、あなたの状態です。さて、これから、あなたはどのようにしていくのでしょうか。

あなたも、どうぞ、もっと真正面から自分を見つめ、自分を受け入れていってください。あなたのする仕事は、これでございます。どうぞ、そのことを、今一度あなたの中で、確認していってください。

二四〇、***さん、あなたの心を語ってください。

私は、***でございます。愛、優しさ、そういうものを、私は取り違えてまいりました。人の幸せ、心の安らぎ、欲を外して、私なりに考えてきたけれど、私は、それも間違ってきたことを感じています。

人間の心の世界は、もっと奥深いものだったのです。それを私は、浅く、浅くとらえてき

ました。誰もが幸せになれるはずだ、どうして、この世の中は、こんなに不公平なのか、明日をも知れない命、一方では、欲の限りを尽くしている人達、そのところが、私には、なぜ、こんなことが起こるのだろうか、よく分からなかったのです。

でも、すべてが必要でした。どんなに苦しくても、どんなに悲惨な状態であっても、そこに息づく意識達にとつて、すべてが必要な現象でした。

愛を間違つてとらえてきました。人の優しさ、幸せ、すべてを小さく、小さくとらえてきた私がございました。

***さん、あなたは、この学びにたくさんの人を連れてこられています。あなたを通して、この学びに繋がっていく人達、その意識達に、私は、お伝えしたいです。

どうぞ、この学びに繋がった人達、自分の心をしっかりと見て、この学びで伝えられていることを、正しく心で理解していただく。

一人でも、また、少しでも、自分の中を見るところという実践を通して、本当のことを、知っていただきたいと思えます。様々な環境、様々な背景を背負って、今世、肉体をいただき、この学びに繋いできました。そのことを、どうぞ、***さんとともに、それぞれがそれぞれの心を見て、しっかりと学んでいってください。

*****さん、ありがとうございます。あなたの心で感じたものを、ストレートに、あなたの思いを挟まずにストレートに伝えていってください。そのために、あなたも、お母さんの反省を通し、瞑想を通し、どうぞ、田池留吉、アルバートに心を向けていってください。

二四一、*****さん、心を語ってみてください。

私は、*****でございます。お母さん、申し訳ございません。瞑想を通し、自分の心をしっかりと見ていくことを、今、感じ、とても嬉しいです。主人とともにやってみています。田池先生に、伝えていただいたことを、素直に、本当に素直にやっていきたいと思っています。心からどんだん思いが出てくるけれど、どれもこれもお母さんの温もりを待っていたすごいエネルギーでございます。

そのエネルギーに私のこの肉を通して、今世の時間許す限り、学んでいきたいと思えます。間違ってきた道を歩き続けてきました。他力の中を、幸せを求め、喜びを求め、ずっと歩き続けてきた私にとって、今世のこの時間は、本当に大きな喜びの時間でございます。今、語れることが嬉しいです。

主人ともども心を本当の自分に向けていこう、私は、そのように思っています。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、心から田池留吉を呼ぶ思いを感じます。

くそつたれでもよかった。死にさらせでもよかった。バカつたれでもよかった。何でもよかった。心を田池留吉に向けることを教えていただいたことが幸せでございます。

***さん、ひとつ、あるいはふたつの転生を重ね、二五〇年後に再会することを楽しみにしています。心からアルバート、くそつたれアルバート、会いたかったよ、アルバート、その思いを確認できる二五〇年後を楽しみに、私は待っています。

二四二、***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。己一番の心をずっと引きずりながら学びに集っていた。こ

の私の心の中、すさまじいエネルギーでございます。自分の肉体細胞を壊して当たり前でございます。そんな私が、今までよく命があつたものだと思ふくらい、すごいエネルギーを出してきました。

私が蓄えてきたエネルギーでございます。私以外にどうすることもできないエネルギー、私自身、ああでも私は、自分の心を見ているかと言えば、まだまだ私の見方は、甘い、甘い、甘い、そのように自分自身を評価しています。

己を正当化してきました。そびえ立っている自分をなかなか分からずにきました。すべてが正しい、その基盤のところから見えていました。今、そびえ立ちの自分を感じ、そのことを思います。

***さん、あなたの中の他力のエネルギーはどうでしょうか。優しい思いを向けることができますでしょうか。

優しい思いなど向けることはなかった。なかったというよりも、できませんでした。そのエネルギーを誇ってきた私があつたからです。誇り、そのエネルギーを大きく膨らませることが、私の喜び、幸せになることだと、信じて疑わなかった過去からの私がありました。優しい

思いをかける、優しい思いを向ける、今世初めて、そのことを伝えていただきました。お母さんに向けてきた思いを、自分の中でしっかりと見つめ、それでも母は、私を受け入れてくれた、その思いが、心に微かに響くとき、優しい思いをかけるとは、こういうことだったのか、今、私は、遅ればせながら、そんな自分を心の片隅で感じています。

****さん、肉の時間の許す限り、自分を見つめ、お母さんに思いを向け、そして、これからのあなたに思いを向けていってください。おそらく、あなたにも厳しい転生が用意されていると思います。どうぞ、心を見失わないで、心を繋いでいってください。そのためには、今世の時間、本当に大切にしていってください。何よりも、何よりも、あなた自身を大切にしていってください。

二四三、****さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。はい、私も自分の中に沖縄の神を、ずっと、守り神として宿してまいりました。そんな過去からの私を感じます。沖縄王国という中で、私の心は、ずっ

と縛られていた。そのように感じます。

母の温もりに心を向けていくことを、自分に伝えようとしています。

なかなか厳しい道のりですが、私は、母の温もりを自分に向けて、その温もりで自分自身を包んでいきたい、間違つてきた苦しかった私を、私が包んでいきたい、そのように思っています。

***さん、心を閉ざしてきたあなたの中に、ほんの少しですが、少し、心を緩める、そんな兆しが見えているような、そんな気がします。

どうぞ、そのことを信じて、日々の時間の中で、瞑想をしていってください。あなたにも、ゼロ歳の時、無心にお母さんに抱かれていたあなたがありました。ただただ、そのことを信じて、どうぞ、心を向けていってください。

ほんの少し緩んできたその隙間から、優しい思い、温かい思いを感じていってください。そして、少しずつ、少しずつ、その隙間を開けていくようなあなたであればいいと、私は、思います。

二四四、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。心の中に聞こえてくる思いに従って、私のこの肉体を動かしてきました。今までの私の転生は、そのような転生でございました。自分の中から聞こえてくる思いに肉体を動かしていく、そのエネルギーがどこから来るのか、私は、思いもみませんでした。すべて、自分が正しかった。自分の中には、何かを感じるパワーを秘めている、私は、そのように思い続けてきました。今世、学びに集い、そんな自分を指摘されたときに、私は戸惑いました。まさにその通りだったからです。

心の中に聞こえてくる声に従って、私は、ずっと、この肉体を動かしてきた、その思いを、ずっと感じてきました。

私は、それを誇ってきました。そう、誇ってきたんです。でも今世、この学びに集い、自分の中のエネルギーのすさまじさに、こんなに私を誇ってきたのか、私は、自分ながら驚きましました。驚いたけれど、その自分をどうすることもできませんでした。どこまでも、どこまでも、己を誇る思いは、天高くそびえ立っている自分を、示しているだけでございました。

***さん、あなたは、アマテラスをどのように思ってこられましたか。

はい、そう私の中にアマテラスは、素晴らしい神として、崇め奉ってきました。アマテラスは素晴らしい、アマテラスこそ素晴らしい、確かに、私は、過去よりずっとそのような思いできました。

ああでも、学びに繋がって、アマテラスの心の中の苦しさ、すさまじさを感じるにつけ、今度は、そのアマテラスを自分の中から、排除しようとなりました。それがアマテラスの心そのものだとすることに、私は、なかなか気付かなかったし、気付かかけても、自分で認めることはできませんでした。アマテラスとともに生きてきた私を、私が排除していく、この不合理を、私は、平然とやってきたのです。

異語。

***さん、どうぞ、あなたも、ゼロ歳の自分を思い出す瞑想をなさってください。素直な何の思いもない、素直なあなたに戻って、お母さんに抱かれていたときのあなたを思い出してください。あなたの中から聞こえてくる声も何もなかった。ただあなたは、そこにいます。だけで幸せな自分を感じていたはず。そこへ自分の心に戻して、そして、その目で自分自身を見つめる、そうやって、どんどん、あなたの心を幼子の目で見つめていってください。

二四五、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。母に使ってきた思い、どれだけ見ていっても、私の中からどんどん出てきます。母に使ってきた思いこそ、私のすべてでございました。頭を誇ってきたのはもちろん、己というものをすべてを誇ってきました。私は、私を誇ってきたその思い、今、母の反省、母に向けた瞑想を通して、そのエネルギーを感じています。

たくさんの間違いを続けてきました。お母さん、ごめんなさいって言える私があるのに、素直にあなたにごめんなさいが言えなかつたです。

今、お母さんに向けて心を語らせていただいています。素直な私がここにいます。お母さん、間違つてまいりました。申し訳ございません。

***さん、田池留吉に心を向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、私の中に温もりも優しさもあることを、私は、長い間、信じること

ができませんでした。頭では理解していました。心にも、色々なものを感じてきました。でも、心の底から自分を信じてきたかという点、私は、そうではなかったように思っています。

田池留吉を真剣に思っています。心の中の温もり、心の中の優しさを信じて、私は、自分と真向かいになって、もつと、素直に自分を語ってみたいと思います。

異語。

*****さん、どうぞ、瞑想を重ねていってください。異語でどんどんあなたの思いを吐き出し、そして、田池留吉に心を向けていってください。心がもう少し、広がっていくと思います。もう少し広がっていけば、あなたは、またその心で色々なものを感じていくでしょう。そして、また瞑想を重ねていってください。瞑想を重ねていってください。

二四六、*****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、*****でございます。心の中の苦しみ、色々な思い、心から出しているように思います。

何を語っても、どんな思いを吐き出しても、私は、受け入れの中にあつたことを信じて、自分を、自分の心を、解き放してみたい、今、そのように思っています。

***さん、お母さんの反省はどうでしょうか。お母さんの反省を焦らずに進めていくて下さい。お母さんの反省をするということは、あなたの心を解き放す方向にいつているのです。

お母さんに使ってきた心、すさまじいエネルギー、すべてはあなたでございませう。どうぞ、焦らずに、しかし、着実な一歩を踏み出していつてほしいと思います。

あなたの心の中の苦しさが伝わってまいります。肉の蓋をどうぞ、母の反省を通して、ずらし、そして、覗いてみてください。母の反省をしっかりとしていれば、どんなあなたも、そこから飛び出てきても、心配はいりませう。

お母さん…、心向けければ、母の思いに呼応するように、たくさんのお母さんが出てきます。肉のあなたができることは、母に使ってきた思いを見ていくこと、そして、欲を持たずに瞑想をする時間を持つこと、それだけでございませう。

そうしていくうちに、あなたがあなたに答えてくれる、人に聞かずともあなたがあなたに答えてくれます。

その思いを感じ、また母の反省と瞑想を繰り返す、そういうことをやっていってください。

二四七、 ****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、 ****でございます。心の中に秘めてきた私の思い、とてもすごいものがござい
ます。中でメラメラと燃える炎、私の中は、そう静かに、静かに、燃え続けています。

たくさんの心を使ってきましたが、私自身、まだ自分の心の奥底に思いが届いていない、そ
んな気がします。メラメラと燃え盛る炎、私の中に、その火種がくすぶり続けています。消し
去つても、消し去つても、メラメラと燃え続けている。なぜならば火種を私は、まだ自分の中
ではつきりと、確認していませんからです。

****さん、心をどんどん語ってみてください。奥に、奥に、詰め込んできた
あなたの思い、それが、消化不良となって、あなたの中に蓄積されています。メラメラと燃え
盛る炎、その消化不良となったものは、いつ何時、爆発するかもしれません。その時でもいい
かもしれませんが、一応その前に、あなたは、あなたの心をどんどん吐き出してみたっていい

ださい。次から次へ出てくると思います。なぜならば、あなた自身もアマテラスに、自分の心を売ってきたからです。

アマテラスの御許にひれ伏してきた自分の思いを、押し殺して、存在し続けてきました。心に秘めてきたその思いは、とても強いものがございます。あなたは、それをメラメラと燃え盛る炎、火種、そういうような表現をされたと思いますが、その通りです。あなたの中のアマテラス、いつの日か必ず、そのエネルギーを爆発していくでしょう。

二四八、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***と言います。心を見ることも、まだまだ自分の中ではつきりとしなない私ですが、自分のあり方というか、そういうものが何か違っているような感じがします。どこがどう違ってきたのか、本には色々と書かれています、私の心の中で、今ひとつ、じっくりきいていません。心で感じるということに、まだ私の中はなっていないと思います。

ですが、何かを違えてきた、そういう感じを持ちながら、私はこれまでやってきました。

****さん、心を見る、お母さんに使ってきた思いを見る、ゆつくりと着実にやっていくつてください。これからのあなたの時間は永遠です。永遠と言われても、今のあなたには、抽象的ですが、そう、あなたの時間は、永遠、その中であなたがどのように存在していくのか、それをひとつ、あなたのテーマとして、色々なものを見て聞いて、そして、これから色々なことを体験していってください。自分のあり方が間違ってきた、そういう気がする、その感覚を大切にしていってください。

二四九、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。お母さん、自分勝手に生きてきた私の中が、お母さん、ごめんなさい、許してください、申し訳ございません、そういうふう言っているのを感じます。肉の私は、大バカ者です。立派にやってきた、一生懸命にやってきた、至らないところもあつたけれど、私は、それなりにやってきた、そんな思いで、ずっと生活をしてきました。主人にも子供にも、もちろん、お母さんにも、周りの人すべてに対して、私は、そういう思いを流してきました。

肉の世界では、そうだったのかもしれない。それなりにやってきた、それは正しかったのかもしれない。でも、私の中は、全く間違いだらけでございました。苦しい中を生きてきた私を全く顧みず、今世までやってきたんだなあ、今、そう思います。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、田池先生、はい、何とも言えない優しさを感じます。どれだけの思いを流してきても、どれだけ狂ってきても、私は、自分の中を見るように促されてきたことを感じるにつけ、幸せ者だと思えます。

田池を殺してやる、田池を……という思いを心に抱えて、今世、生まれてきたんですね。私も今世、生まれてきたんですね。

苦しい目に遭いました。辛い目に遭いました。自分の出してきたエネルギーを見させてくれる現象でございました。主人に優しくしていきます。主人の心が私から離れたのは、すべて私でございました。その思いをもう一度じっくりと、自分の中で振り返ってみたいと思います。私のできることは、私自身を振り返り、私自身を見つめる、それだけだと今、思っています。

二五〇、***さん、心を語ってみてください。

私を上から押さえつけるな、押さえつけるな、私とて、ひとりの人間、そう、ひとりの人間です。何もかも私は、押さえつけられているような、そんな圧迫感を感じてきました。心を語ってみてください、そう促されたとき、苦しい、苦しい、私は、上からいつも押さえつけられているような中に私はいる、その思いを、私は、吐き出してみたかったです。

***さん、その思いは、あなた自身が作ってきた世界です。その中で、あなたは、自分を自分で押さえつけてきました。色々自分を押さえつける現象があつたと、あなた自身は思っています、それはすべて、あなたでございませぬ。そのところを、あなた自身が心で感じられるように、もっと自分の心を見ていってください。

あなたは、お母さんにも、そのような思いを流し続けてきたのではないのでしょうか。お母さんを思って、瞑想をしていますか。

その前にお母さんに使ってきた心を、あなたも、ひとつひとつ確認してきたでしょうか。どうぞ、心の中の思いと向き合ってください。決してあなたの外から来るものではないでございませぬ。

あなたがあなたの中から訴え続けている、そのことを、どうぞ、あなたの心で感じられるようになってください。

そうすれば、あなた自身も、どれだけ自分がそびえ立ってきたのか、そのそびえ立つ自分を、心で感じられるようになると思います。あなたは、そびえ立っていますよ、あなたの奥さんが、色々な言動を通して、あなたに伝えてくれている、これは、大きなヒントではないでしょうか。

二五二、***さん、あなたの心を聞かせてください。

私は、***です。学びをしてからの私の心の変化を感じます。間違ってきたことを感じます。心の方が、私自身もまだ浅いと思いますが、自分が何を思い、何を根本にしてきたのか、間違ってきたなあと、私は、自分の中で感じています。

これからの私の肉の時間、なるべくこの学びに沿っていいことと思いますが、なにぶん私自身、心はまだ固い状態でございます。

色々な思いを詰め込んできたし、すごいエネルギーを蓄えてきたことも、感じますが、ああでも私の心の蓋は、しっかりと閉じられたまま、そんな今の自分を感じます。

***さん、どうぞ、奥さんといっしょに、そして、学びの仲間といっしょに、これからもやっていってください。

あなたの心の中にもお母さんに対する思いを始めとして、様々な過去からの思い、他方への思いがしっかりと根付いています。心を語っていきましょう。恐れずに、あなたの心を自分の中で、緩めていってください。奥さんと、異語で語り合っていますか。どうぞ、奥さんと異語で語り合ってください。あなたの奥さんであって、奥さんでない、そして、あなたも、奥さんから見れば、主人であって主人でない、そんな意識の繋がりを、異語で語り合うことによつて、互いに心で感じ合う、そんな夫婦となつていってください。

たくさんのお思いが心から飛び出てくると思います。あなた自身、そのあなたをしつかりと確認して、そして、ともにという思いを広げていってください。幸せは自分の中にあつた、喜びも自分の中にあつた、これからの転生を、その思いを確認することに使つていってください。

二五二、***さん、心を語ってください。

私は、***です。ああ本当に色々なことを体験して、私は、自分を自分で見つめると
いう幸せの中にあつたんですね。

心を置き去りにして、私自身を置き去りにして、他力の中、一直線に進んできた自分のその
方向を見つめるというか、変えていくために、今世の私の時間があつた、それを、私は、心
で実感しています。

私からすれば、どうにもこうにも、受け入れられないことばかりでございました。それで
も、受け入れられない、受け入れられないと言つてられないほど、次から次へと私に起こつて
くる様々な現象を通して、私は、自分に気付きと促しを、繰り返し、繰り返し、そのサインを
送つていたんですね。全く違ふところから見れば、これほど幸せな私はなかつた。そう思いま
す。そう思えるように、ようやく、少しずつですが、なつてきました。

***さん、他力の反省、この学びに集う前に、入つておられた他力の反省、どうぞ、そ
の思いを、もう一度、振り返つてみてください。そこで使つてきたあなた自身の思い、同時に、
あなたのお母さんに使つてきた思い、今一度、瞑想を通して、振り返つてみてください。

あなたがあなたを待つていることが感じられるでしょう。

私は、素晴らしい、そんなあなたを崩していくための今世でした。その崩れた後、あなた

の心の中に残るものは何でしょうか。それを早く、あなた自身が知ってほしいと、あなたがあなたを待っている、その思いを感じてみてください。

そして、あなたも自分の転生に心を繋いでいくような方向に、心を向けてみてください。他方のエネルギーの中から、半歩抜け出し、一歩抜け出して、心をアルバートに向けていけるあなたと私は出会いたい、今、そのように思います。

二五三、***さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、***です。バカなことをしてきた、バカな思いを使ってきた、だけどそのバカなことをして、バカな思いを使つてこなければ、私はこの学びに集うことができなかつた、今、自分を振り返り、そのように思っています。

主人を足蹴にし、主人をないがしろにして、私は、自分の思いを通すというか、その何か自分の強いエネルギーを感じています。

でも、今、私は、主人とともにこの学びをやっていくことができる幸せの中にあります。よかつたです。大枚を使つたけれど、それも私には必要なことでした。

大バカ者の私をしつかりと見させてくれる出来事でした。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、心を見てまいります。ともに主人とともに、今、心を見ていく時間が与えられていることを嬉しく思います。

ずうつと、ずうつと間違ってきた、そんな自分を優しく受け入れていきたい、そう思います。厳しい思いも出ます。己偉い思いも、もちろん出ます。でも、私のこれからを、見つめていく方向に心に向けていけること、私は、幸せに思います。おそらく、主人もそうだろうと思います。長い間、申し訳ございません。自分勝手な私を主人は受け入れてくれました。冷たい、自分勝手だと、主人に散々その思いをぶつけてきたけれど、すべて、私の姿でございました。

主人は、とても優しい人でございます。私が冷たくて、自分勝手でした。

***さん、どうぞ、ご主人とともに、これからも自分達の歩いていく方向を、しっかりと見定めてみてください。

心を語っているあなたの思いを感じさせてください。嬉しく思います。ああ、この人も、

二五〇年後に出会う人なんだなあ、そんな気がします。ともに喜びを分かち合いたい、嬉しい仲間だと思います。

二五四、***さん、心を語ってみてください。

人としての幸せを願い、人としての喜びを求め、それが何がいったい間違っているのか、どうして間違っているのか、自分の何が間違っているのか、間違ってきたのか、私も、心の中にその回答を求めたいと思っています。

苦しい、苦しい、もう嫌だ、なぜ私は生まれてきたのか、こんな苦しい時を過すなら、お母さん、あなたに生んでほしくなかった、私の中には、そのような私がたくさんいます。母を恨んで母を呪い、生まれてきたことを呪ってきた自分が、たくさんいるような気がします。

それでも、私は、肉体を持って、今ここにいます。このようにして自分の心を語るとき、自分の中の辛さ、やるせなさ、悲しさ、どん底の思いが自分に伝わってきます。

そうか、この私をしっかりと、今、自分で確認していくために、私はあつたのだ、微々たる思いだけでも、心を語ることによって、そう感じます。

異語。

***さん、他力の中に埋もれてきたあなた自身、あなたの中にも苦しさが、うずたかくあります。でもそれを、どうぞ、恐れずに、真摯な思いで、ひとつひとつ、確認していただく。

自分は何のために今ここにあるのか、母を呪う思い、恨む思い、生まれてきたことを恨む思い、そんな思いを、たくさん抱えてきた自分は、本当に地獄の奥底で喘いでいたのだ、まだ、はつきりとしつかりと感ぜられないけれど、まず、そう、思えるように、あなた自身も、心を見ていってください。

あなたの吐き出す言葉、行動、そこに根付く他力の思い、それをひとつひとつ、紐解いていくのは、あなた自身でございます。心の中に助けを求めている自分自身を感じられたならば、何が何でも、その自分を救いたい、自然とそう思うのではないのでしょうか。みんな、自分の心の苦しさを知らずに死んでいく中で、心を見るところを、実践することが、どれだけ幸せで恵まれているのか、これから、あなたが、その実践をされる過程で感じていくことだろうと思います。

二五五、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。間違っただけで存在してきたことは、私も同じです。どれだけそびえ立ってきたか、自分の心を見ていると、そればかりが感じられます。笑いで吹き飛ばしてきました。でも、その笑いが、心の底の底から笑えるような私自身に出会ったのは、今世が初めてでございます。

心の底から幸せだ、嬉しいと、私は、今、思っています。

目を開けて生活をしていけば、色々なことが目に見えて、耳に聞こえて、周りの人達は、私の心に波風を起こします。ああでも、この思いを私自身が受け止めていける、それが私なんだ、今、私はそのように感じるとき、みんなにありがとうという思いが、自然と出てきます。

まだまだ間違ってきた私自身を、しっかりと感じていないわけではないけれど、ほんの少しでも、ああ、私は間違ってきた、今世生まれてきてよかった、お母さんありがとう、そう思える私があることが幸せです。

異語。

***さん、ご主人とともに歩いていってください。ご主人は、あなたにとって、ベストパートナーでございます。どうぞ、互いに心を見て、本当に夫婦となったことを喜びとしていってください。

もちろん、ご主人は、口ではあまり語らないと思います。どうぞ、心と心の中で、その思いを確認していってください。そして、あなたがその思いを言葉に乗せて、多くは語らなくていいんです、何気ないときに、ポツ、ポツという言葉に、ご主人は、何とも言えない、喜び、幸せを感じられると思います。そうやって、夫婦仲良く、お茶を飲む、そんな何ていうことでもない、そんな時間を過していかれたらいいのではないのでしょうか。

二五六、***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、私は、一番、一番、一番、何でも一番、一番、一番、そうやって、私は、過ごしてきました。この心ですつと過ごしてきました。何でも、一番、一番なんです。ああでも、今世

の環境は、その私の一番、一番の思いを覆す環境でございました。ああ、私の前に立ち塞がっている主人も息子も、何もかも私のこの思いを、ことごとく崩してきました。私は、それに抵抗してきました。だから、私の心は、とても苦しかったです。

一番、一番を目指して、私は、やってきました。

****さん、あなたの心の中にも、チャネラーという存在が入っていますね。あなた自身がチャネラーだという思いもありますが、あなたは、チャネラーを求めてきた思いを、まだまだ反省していません。

なぜ、その人達を求めてきたのか、その思いの底は欲です。素晴らしい自分になりたかった、真実を知っていかうとする思いの底に、素晴らしい自分を見出したいという思いがあります。どうぞ、その思いを、自分の中で確認していつてください。

****さん、田池留吉に心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、田池留吉、私を認めてください。私を認めてください。私を認めてください。ああそんな思いが出てきます。心の中に、私を認めろ、私は一番、私は一番、ああそんな思いがまだまだ、しっかりと息づいています。心を田池留吉に向けたとき、心の中に他力のエネルギーを、しっかりと感じます。幸せを求めてきました。一番に幸せになりました、私は幸せを求めてきました。この思いを、まだまだしっかりと抱えている。心の中に喜び、幸せを求める思い、はい、私は、欲でございました。

二五七、***さん、あなたの心を聞かせてください。

私は、***です。頭を誇ってきた私は、頭を外しなさいと何度も言われてきました。知識をいっぱい詰め込んできたこの頭を誇ってきました。人間の心の世界を分析して、私は、頭でそれを分析して、解き明かす方向に心を、長い間、使ってきました。ようやく、自分の心に響いてくるのですが、それだけが真実だ、そういうふうに見えるようになってきました。

僅かな私の心の変化を、私は嬉しく思っています。以前の私は、そうではありませんでした。心で感じていたことも、すぐに頭に持って行って、頭で分析することが大好きでした。ああで

も、今、心で感じる、ほんの僅かな優しさも、今は嬉しいと思います。

何気ない日々の中で幸せだ、ありがとう、そうやって、目を閉じて瞑想をする時間を持つことが、本当に喜びなんです。私は、今そのように思っています。

異語。

***さん、どうぞ、あなたも心に入れてきた他力のエネルギー、他力のパワー、その思いをしつかりと見つめていってください。

優しいあなたになられているからこそ、あなたの中のすさまじいエネルギーを、少しずつ受け入れていけると思います。心で受け入れるということを心で知っていってください。それを重ねていくうちに、あなたももっと優しくなってこれれると思います。周りの人達に、優しく、優しく、肉ではない優しさ、何気ない仕草の中、何気ない言葉の中、その中に本来の優しさが、にじんできると思います。

どうぞ、二五〇年後、楽しみに待っています。私は、楽しみに待っています。

二五八、****さん、どうぞ、あなたの心を語ってください。

私は、****です。自分の知らない世界を垣間見た私の心の中、驚きが走っています。他力の中に埋もれていたとか、他力の中にどっぷりだとか、それが、自分自身であることを、私は、まだよく分かっておりません。でも、この肉体を私だとする、****が私だとする思い、これが他力の思いだと言われれば、まさにその通りです。私は、この世に、この今の私しかないと思ってきました。だから、今の私のために、色々な思いを使い、色々なことをしてきたんだと、今、少し納得しています。

まだまだ私の心を語るという段階ではありませんが、私には、私が思っている私以外の私がたくさんいる、そんな世界が私の世界だったんだ。今、そのように思い始めると、不思議というか、驚きもありますが、少し嬉しい、そんな気がします。

異語。

****さん、どうぞ、あなたも、お母さんに使ってきた心を、少しずつでもいいですから、心を見るその手順に従ってしてみてください。

お母さんに使ってきた心ですよ。思い出せるだけ思い出してください。お母さんにしても
らったこと、してあげたこと、してくれなかったこと、それを思い出すときに、あなたの思い
も、同じように出てくると思います。その思いを、ただノートに書いていってください。ただ
それだけです。それを繰り返し返していってください。こんなことがと思うことが、あなたにとつ
て、それを重ねていくうちに、自分の中が、きつと変わってくるだろうと思います。どうぞ、ま
ずそこから始めてください。

二五九、***さん、どうでしょうか、自分のエネルギーを感じられて、今あなたはどの
ように思っていますか。

はい、すごいエネルギーだと、私は感心しています。すごいエネルギーを蓄えてきた、こ
の私の中、いつまでも、いつまでも、この中に私はいはいけないと分かりつつ、それでも、
どんどん中から出てきます。

私の中は、真っ黒です。真っ黒は嬉しい、私は、肉の私は、そのように思っています。で
も、私の中は、そこまでは、まだまだ思っていないような気がします。真っ黒が嬉しい、これ

は、本当に優しい自分と、温もりの自分と、心の底から出会うことがなければ、心の底から言えないなど、今、私は、そのように思っています。

***さん、そうですよ。本当の自分と出会ってこそ、真つ黒が嬉しい、心の底から叫べるんです。心の底から叫べたら、そう、無尽蔵に出てくるすさまじいエネルギーは、苦しいという思いよりも、嬉しいという思いに変わってきます。嬉しいという叫びが出てくるんです。苦しい、なにくそ、くそつたれ、その思いが、嬉しい、嬉しい、ありがとう、ただただその思いに変わってきます。

どうぞ、あなたも、あなたの日常生活を通して、心を見る作業を通して、瞑想を通して、そちらの方向に心を向けていってください。

今、あなたに思いを向けていると、ああそうですね、あなたも一人の人を心に入れてきて、あなた自身、それは間違っていたという反省をしてこられたと思いますが、その反省は、優しさを少し欠いているような気がします。だから、あなたの中にまだまだその思いが、しっかりと残っています。恨みつらみがあつて、私は間違つてきた、そういうふうな反省ではないでしょうか。そうではないんです。優しい思いを向けていってください。心に入れたのは、あなたです。そのあなたを、どうぞ、もつと見ていってください。ただただ優しい思いで見えています。

ください。

二六〇、***さん、心を語ってみてください。

私は、***と言います。お母さんに使ってきた心、はい、お母さんに使ってきた心で見ているとしています。見たくない心も出てきます。どうしても認められないと、私は自分で何かを感じているから、お母さんに使ってきた心を、まだまだ見られない、そんな自分があるように思います。

お母さんがいたからこそ、今の私がある、確かにそうですね。でも、私もお母さんをお願いして、私を生んでくださいとお願いしたのでしょうか。心の中では、そんなはずがないという思いが返ってきます。反発する思いが返ってきます。はい、この心を見てまいります。

異語。

***さん、そうですね。私を生んでくださいとお母さんをお願いしたあなたの思いを、

あなたの心で感じるには、まだまだたくさんの方が、確かにあなたは、お母さんに願ひ出たのです。結論はそうです。あなた自身がそこに行き着くまで、どうぞ、あなたの心の中を掘り下げて見ていってください。どんなお母さんでもよかったですよ。あなたはそうではなかったと思います。その思いが、あなたの過去からの思いであって、今のあなただけの思いではありません。だから、お母さんの反省をするということは、本当は難しいかもしれません、今のあなたの思いを正直に、どんどんノートに書き綴ってってください。

あなたは、あなたひとりだと思っていますが、たくさんの方が、その手を使って、思いを吐き出してくれると思います。

こんな思いは私ではない。そういうことは必要ないんです。あなたの中から出てきた思いを、まず書き出してみる。そして、目を閉じて思う、また書き出してみる。そうやっていくうちに、ああ私の中には、たくさんの方がいることを、何となく、あなたは感じていくと思います。

そういう地道な作業を続けていけば、あなたもきっと、何か自分の心で領けることがあるでしょう。そして、また、本を読み直してみてください。

自分で学んでいく、ほんの一步でもいいですから、それをやっていってください。

二六一、***さん、あなたは、今幸せでしょうか。

私は、***です。はい、幸せです、そのように私は、はっきりと答えたいです。ああ、
…たいが付きます。

幸せを感じているのは、確かです。この心の中には、私自身、すごいエネルギーを蓄えてきたし、そのエネルギーは、今もまだ、しっかりと私の中に残っています。私は、はい幸せですと答えるためには、私が私を受け入れていく、つまり、自己確立の道を歩き始めてこそ、私は、はい、私は幸せですと、胸を張って言えるのだと思います。

今は、まだ、その前の段階だと思えます。確かに、心の中に嬉しさは込み上げてきます。嬉しい、よかったね、ありがとう、そんな思いが、出てきているのは確かです。

ああでも、この心の中に、あなたは幸せですか、真つ直ぐに訊ねられたときに、私は、まだまだ本来の自分の道を歩き出していないことを感じます。一步を踏み出したと思えますけれど、私は、まだその軌道に自らを乗せていない、そのように感じます。

肉での喜びや幸せは感じます。この学びに集えてよかった、本当によかった、みんなの嬉しい顔、私の嬉しい思い、そういうものを感じさせていたでいて、よかったなあをつくづく思いますが、意識の世界の話になると、少し、厳しい自分の中からの思いが伝わってきます。

異語。

***さん、あなたのおっしゃる通りだと思います。この学びは、今世から、二五〇年、三〇〇年へと続いていく学びでございます。あなた自身も自分の転生の中で、心を繋いで、そして、二五〇年後の最終時期に、その照準を合わせていくようにしていただく。

二六二、***さん、他力の反省は進んでいますか。

私は、***です。他力の反省、私の中で、今ひとつ捗っていません。心を見てきました。他力に向けてきたエネルギーを自分なりに感じてきました。でも、心の底から申し訳ありません、私は間違ってきました。その思いが今ひとつ、私の中で響いてこない。それが私の現実でございます。

申し訳ございません、間違ってきましたという上辺の思いは出てきます。しかし、心の底の底から、私は間違ってきました、何度自分を裏切ってきたことか、そういう反省には、私はまだ至っていないと思います。

他力の反省が進まないのは、お母さんの温もりを心に感じていないからだ、私自身は思っています。

異語。

****さん、そうですね、あなたの中には、まだしっかりと他力のエネルギーを握る心があります。それは、あなた自身は、今世、その思いを確かに見てこられたでしょう。でも過去から、あなたは、その思いの中にずっと沈み込んできた。それは、どなたも同じですが、その思いを、あなた自身まだ甘くとらえていると思います。

そんなに容易く他力の反省はできません。ですから、真摯に焦らずに、と申しています。できた、分かったという世界ではございません。どうぞ、心をお母さんに、田池留吉に向けて、日々の時間を過ごしていただく。

肉のことはもういいです。あなたの思いを真剣に、自分の中に向けるようにしていただく。

二六三、 ＊＊＊＊＊さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、 ＊＊＊＊＊です。心の中に詰め込んできた思いを、私も、一度自分の口から吐き出してみたい、いつも、いつも、そのように思い、セミナーに参加してきました。私には、そのチャンスがありませんでした。今のところ、ありませんでした。まだまだ私の中が、思いを吐き出すところまで至っていないのかなあ、私は、今、そのように思っています。

異語。

＊＊＊＊＊さん、そうではありません。今は、あなた自身が心を見る大事な時間だと思えます。どうぞ、お母さんの反省を通して、どんどんあなたの思いを吐き出していきましょう。あなたの中からも、パソコンにでもいいですが、できれば異語がいいでしょう。あなたの中から外へ出す、それは、お家でもできることです。それを繰り返しやってみてください。

あなたが、おっしゃるように、あなた自身、自分の思いを閉じ込めています。重い蓋を、あなたはまだ開けていない。そう、それを押さえているのは、自分自身だということに、気付いていってください。

蓋を開けるのはあなたです。そのほんの少しの勇気があればいいんです。あなたは、蓋を開けるのを恐れています。怖がっています。それはなぜでしょうか。あなたは自分を崩したいと思っているけれど、あなたは、まだ自分を崩したくない、崩れていくことを恐れている自分があるのではないのでしょうか。

どうぞ、焦らずに、自分の思いと真向かいになって、異語で、どんどんあなたの思いを語ってみてください。異語と言っても、何でもいいんです。あなたのその口から音を出す、そのことをあなたも実践していつってください。

二六四、***さん、お久しぶりです。心をどこに向けていますか。心がこの学びから離れていませんか。

私は、***です。自分では、そんなつもりはないと思ってきました。でも、私の心の中は、そう、段々この学びから遠のいているような、そんな気がします。今、自分の心を語ろうとするとときに、そんな気がします。

心の苦しさを、どうすることもできない自分に、ほとんどあきれているという状態です。ど

んなにしたって、私は、意識の転回もできないし、苦しい中にいる。それならば、いつそのこと、そのような思いでいたのも事実だと思えます。

しかし、自分の中を今、語ろうとするときに、やはり、私はこの学びから離れていけない自分を感じます。肉はバカですね。私は、今そのように思います。

異語。

***さん、あなたの心をしっかりと見つめていってください。

私は、以前に、あなたも己が偉いですねというふうなことを、あなたに向かって言ったことがあると思います。憶えておられますか。あの当時の思いのままです。あなたは、自分の己偉いという思いを、まだまだ、じっくりと見ていない。それほどそびえ立っているということ。自覚できないほど、そびえ立っている。そういうところからこの学びを、再び始めてもほとんどどうにもできないということを知っていただく。

お母さんに向けてきた心、そして、あなたの肉體細胞に向けてきた心、もちろん、周りの人達に向けてきた心、すべて、そびえ立った自分のところから、見てきた、感じてきた。そんなあなたではないでしょうか。

二六五、***さん、心を聞かせてください。

お母さん、私は、ようやく自分の生きていく方向を教えていただきました。あなたから、ずっと、そのように教えていただいていたけれど、私は、ようやく、あなたの思いを微かなながら、心で感じられるようになりました。

自分の生まれてきた意味を心でかみしめて、私は、これからもやってまいります。

間違ってきた道を歩いてきたけれど、今は、その間違いを、ひとつ、ひとつ振り返ることによって、私は、どれだけ許されてきたか、そういう思いと出会いたいと思っています。心の中に自分の幸せと喜びがあった、本当の自分が存在していた。肉に伝えていただいたこの情報を、私の心の中で、確かなものにしてまいります。

お母さん、ありがとうございます。

***さん、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、田池留吉、心の中に培ってきた他力のエネルギー、ああこれが私なんだ。私は、この私を確認してまいります。お母さん、お母さんが、私に教えてくれた道を、歩いていきます。ありがとうございます。

二六六、***さん、あなたの心を、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***でございます。自分の病気を通して、自分に間違いを促して、気づきを促している、そう思います。確かに、私自身が私に、伝えようとしていることを、私は、自分の身体から感じてきました。

本当のことを知らずに生きて生活をしてきた私にとって、それでも、私が私に必死に伝えようとしていたことを感じるにつけ、私は、本当に自分に対して、申し訳ないと、今、思っています。ここまでしなければ、私自身気付けなかった。いや、まだしっかり気付いているという状態ではないけれど、自分に、訴えている私自身を感じ、本当に何とも言えない思いでいっぱいでございます。

****さん、あなたは、お母さんをどのように思ってこられましたか。

私の母親は、自分勝手に、とても冷たい人だと、私は、思ってきました。自分の思いを、思っていることを、周りの者達の思いだとかを斟酌せずに、その思いを通していく母親に対して、私は、すさまじい思いをぶつけてきました。その母の姿を通して、私の心を見る、そういうところが、私には、なかなか受け入れられませんでした。母は自分勝手だ、本当に自分勝手な人と、そんな思いばかりを、母にぶつけてきた私でした。

そんな私が、あの母親から肉体をいただいて、そして、今、ここに存在しています。そのことを思うと、まだまだ母に対して、わだかまりの思いがありますが、そんな思いは、本当はどうでもよかつたんです。今世肉体をくれたこと、だからこそ、私は、自分を今ここに存在させて、本当の道に繋がる学びをしている、それだけでございました。

私が母親に対して出してきた思い、それを、これから私の中で、受け入れていこうと思います。

****さん、どうぞ、お母さんに思いを向けて、瞑想をして、そして、色々な思いを感じられると思いますが、その思いもゼロ歳のあなたに戻れば、みんな、みんな、自分が間違ってきたことに気付かせてくれることでしょう。

そうやって、ゼロ歳の時に戻る瞑想を続けていってください。

そして、その思いを心に広げたとき、どうぞ、あなたの肉体細胞に思いを向けていってください。

肉体細胞の思いを感じていってください。おそらく、自分を落とし込めないで、嫌わないうで、優しい、優しい、あなたと出会っていってください、そんな思いが伝わってくると思います。

二六七、***さん、他力の反省をどんどんしていってください。

私は***です。自分の心の中の他力のエネルギー、私の身体を通して、感じてきました。欲いっぱいの心で、他力のエネルギーを吸い寄せてきたのは、私自身でございました。その反省を、どんどんしていってくださいと、言われました。でも、私は、どうやっていけばいいのか、正直なところ、分からないのです。

***さん、あなたは、お母さんの反省をどの程度、やってこられましたか。お母さんに使ってきた心、思いを、本当に、毎日、毎日、見てこられましたか、そのような実践はして

こられましたでしょうか。

そして、お母さんを思う瞑想、ゼロ歳に戻って、お母さんを思い、その時のあなたを思う瞑想、そのことを毎日、毎日、積み重ねてこられたでしょうか。あなたも学びの時間は長いと思います。そういうようなことを、繰り返しやっていけば、どのようにして、他力の反省をしていけばいいのか、そういうことは、まずあなたの心の中から、出てこないと思います。

それは、あなたの頭で反省をしようとしているからです。お母さんの反省が進んでいけば、そして、お母さんの温もりを心に感じていけば、自ずと、他力に使ってきた自分の心が浮き彫りになってきます。そうして、その自分に対して、優しい思いを向けられるのです。それが、本来の人間の心です。そうやっていくことが、他力の反省です。

基本は、優しい思い、母の温もり、そして、喜び。

いつまでも、他力に使ってきた、心に振り回されたり、苦しみを膨らませたり、また、それで自分を落とし込めたりでは、本来の反省からズレています。

ただただ喜んでいけばいい、そして、優しい自分を、心の中に広げていけばいいのです。それでも、他力に求めてきたエネルギーは、すさまじいです。何度も、何度も、そのエネルギーは、抵抗をってきます。脅してきます。しかし、それでも、母の温もりが心になれば、そのエネルギーは、やがて、母の温もりで包まれていくのです。それが、他力の反省の醍醐味です。

その反省を、あなた自身、どんどんしてくださいと、私は申しています。

二六八、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****と言います。この年になっても、私は生き長らえています。不自由な身体で生き長らえています。でも、私の心の中、意識の世界は、身体とは裏腹に色々な思いを流しています。

思いの世界で、私は、色々と言っています。ただ、その思いにこの肉体がついていけないだけでございます。私にも、心の世界があるということを知ってほしいと、私は思っています。

****さん、あなたの中に、ありがとうという思いはあるでしょうか。

ありがとう、それだけでいいのですよ。ありがとうで、生まれてきて、ありがとうで、死んでいく、それが本来のあなたの姿でございました。

そのありがとう、を忘れてあなた自身、たくさん苦しみを、心に抱えて、今も存在しています。

ありがとうという思いを、心に広げてみてください。

どんなことでもありがとう、です。その思いは、きつとあなたの周りの人達は、感じていくだろうと思います。言葉を語らずとも、あなたのお世話をしてくださる人達にありがとう、その思いを忘れないでください。

また、この人のお世話をしている人達も、ありがとうの思いで、お世話をしてあげてください。その時その時に、色々な思いが出てくるでしょう。自分の身体の調子もあると思います。でも、そんな時は、どうぞ、静かに目を閉じて、すつとありがとうの思いを向けていく、そのように心がけてください。それでも、随分互いの係わり具合が変わってくると思います。私は、そのように思います。

あなたの意識ではありませんか、参考にしてください 第3巻

2009年11月1日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2009 Printed in Japan